HP Operations Smart Plug-in for Systems Infrastructure

HP Operations Manager for Windows®、HP-UX、Linux、および Solaris 用

ソフトウェア バージョン :2.00

ユーザー ガイド

ドキュメント リリース日 :2011 年 5 月 (英語版)
ソフトウェア リリース日 :2011 年 5 月 (英語版)

ご注意

保証

HP の製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2008-2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Microsoft® および Windows® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

ドキュメントの更新情報

このガイドの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェア リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には、次のサイトをご利用ください。

http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の取得登録は、次の Web サイトから行なうことができます。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

または、HP Passport のログイン ページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の 営業担当にお問い合わせください。

サポート

HP ソフトウェア サポート オンライン Web サイトを参照してください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア サポート オンラインでは、セルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HP ソフトウェア サポート Web サイトのサポート範囲は、次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート ケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア カスタマとの意見交換
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ユーザー ID を登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)

アクセス レベルに関する詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

第 1 章 このドキュメントで使用する命名規則 7

第 2 章 はじめに 9

第 3 章 Systems Infrastructure SPI のコンポーネント 11

HPOM for Windows のマップ ビュー 11

HPOM for UNIX のマップ ビュー 12

ツール 14

ポリシー 14

グラフ 15

レポート 15

第 4 章 Systems Infrastructure SPI のポリシーとツール 17

Systems Infrastructure SPI のポリシー 17

トレース 17

検出ポリシー 18

検出の制限 18

可用性ポリシー 21

プロセスとサービスを監視するポリシー 21

ハードウェア監視ポリシー 26

容量ポリシー 60

ログ監視ポリシー 73

Linux システム サービス ログファイル ポリシー 73

Windows システム サービス ログファイル ポリシー 74

AIX システム ログファイル監視ポリシー 76

パフォーマンス ポリシー 77

セキュリティ ポリシー 100

HPOM for Windows 管理サーバーからの SI SPI ポリシーの配布 102

HPOM for UNIX 管理サーバーからの SI SPI ポリシーの配布 103

Systems Infrastructure SPI ツール 105

ユーザーの前回のログイン ツール 105

第 5 章 Systems Infrastructure SPI のレポートとグラフ 107

Systems Infrastructure SPI のレポート 107

Systems Infrastructure SPI のグラフ 109

第 6 章 トラブルシューティング 113

第1章 このドキュメントで使用する命名規則

このドキュメントでは、以下の命名規則を使用します。

命名規則	説明
HPOM for UNIX	HPOM for UNIX は、HPOM on HP-UX、HPOM on Linux、および HPOM on Solaris の総称としてドキュメントで使用されます。 必要に応じて、各オペレーティング システムは次のように指定されます。 • HPOM on HP-UX • HPOM on Linux • HPOM on Solaris
Infrastructure SPIs	HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure を示します。このソフトウェア スイートには、次の 3 つの Smart Plug-in が含まれます。 • HP Operations Smart Plug-in for Systems Infrastructure • HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure • HP Operations Smart Plug-in for Cluster Infrastructure
SI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Systems Infrastructure
VI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure
CI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Cluster Infrastructure
`%OvDataDir%`	Windows 管理サーバーおよび管理ノード上のデータ ディレクトリ変数です。この変数は、インストーラによって設定されます。ユーザー要件に合わせてパスをリセットできます。デフォルト値は `C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\HP\HP BTO Software` です。

命名規則	説明
`$OvDataDir`	HPOM for UNIX 管理サーバーおよび UNIX 管理ノードでのデータ ディレクトリ変数です。この変数は、手作業で作成する必要があります。すべての UNIX ノードおよびサーバーでは、データ ディレクトリは次のとおりです。 • HP-UX (ノードおよびサーバー): `/var/opt/OV` • Linux (ノードおよびサーバー): `/var/opt/OV` • Solaris (ノードおよびサーバー): `/var/opt/OV` • AIX (ノード): `/var/opt/OV` 上記の変数は変更できません。
`%OvInstallDir%`	Windows 管理サーバーおよび管理ノード上でのインストール ディレクトリ変数です。この変数は、インストーラによって設定されます。ユーザー要件に合わせてパスをリセットできます。デフォルト値は `C:\Program Files\HP\HP BTO Software` です。
`$OvInstalDir`	HPOM for UNIX 管理サーバーおよび UNIX 管理ノードでのインストール ディレクトリ変数です。この変数は、手作業で作成する必要があります。すべての UNIX ノードおよびサーバーでは、インストール ディレクトリは次のとおりです。 • HP-UX (ノードおよびサーバー): `/opt/OV` • Linux (ノードおよびサーバー): `/opt/OV` • Solaris (ノードおよびサーバー): `/opt/OV` • AIX (ノード): `/usr/lpp/OV` 上記の変数は変更できません。

第2章 はじめに

システム インフラストラクチャは、企業にとって欠かせない基盤またはベース インフラストラクチャです。システム インフラストラクチャは、CPU、オペレーティング システム、ディスク、メモリ、ネットワーク リソースなどで構成されていますが、これを継続的に監視することによって、基盤となる物理システムの可用性、パフォーマンス、セキュリティ、スムーズな動作を確保する必要があります。監視システム インフラストラクチャは、効率化や生産性向上を実現します。また、インフラストラクチャの障害やパフォーマンス低下を引き起こす根本原因の関連性の特定、切り分け、修正などの作業でも役立ちます。

Smart Plug-in for Systems Infrastructure (SI SPI) は、Microsoft Windows、Linux、Oracle Solaris、IBM AIX、HP-UX 用のシステム インフラストラクチャを監視します。容量、可用性、使用率などの監視要素に基づいてシステム パフォーマンスを分析できます。

SI SPI は、HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure スイート (Infrastructure SPIs) の一部として提供されています。このスイートには他にも、Virtualization Infrastructure SPI (VI SPI)、Cluster Infrastructure SPI (CI SPI)、レポート パック、グラフ パックなどが含まれています。Infrastructure SPI メディアに収録されている他のコンポーネントをインストールする場合は、SI SPI をインストールする必要があります。

HP Reporter が 64 ビット版をサポートしていないため、レポート パックは HPOM for Windows 9.00 では使用できません。

SI SPI は、HP Operations Manager (HPOM)、HP Performance Manager、HP Performance Agent、HP Operations Agent の組み込みパフォーマンス コンポーネント (EPC) などの HP ソフトウェア製品と統合します。この統合により、ポリシー、ツール、各種サービス ビューが提供されます。

Systems Infrastructure SPI でサポートしているオペレーティング システムのバージョンの詳細は、『HP Operations Smart Plug-in for Systems Infrastructure リリース ノート』を参照してください。

第 3 章 Systems Infrastructure SPI のコンポーネント

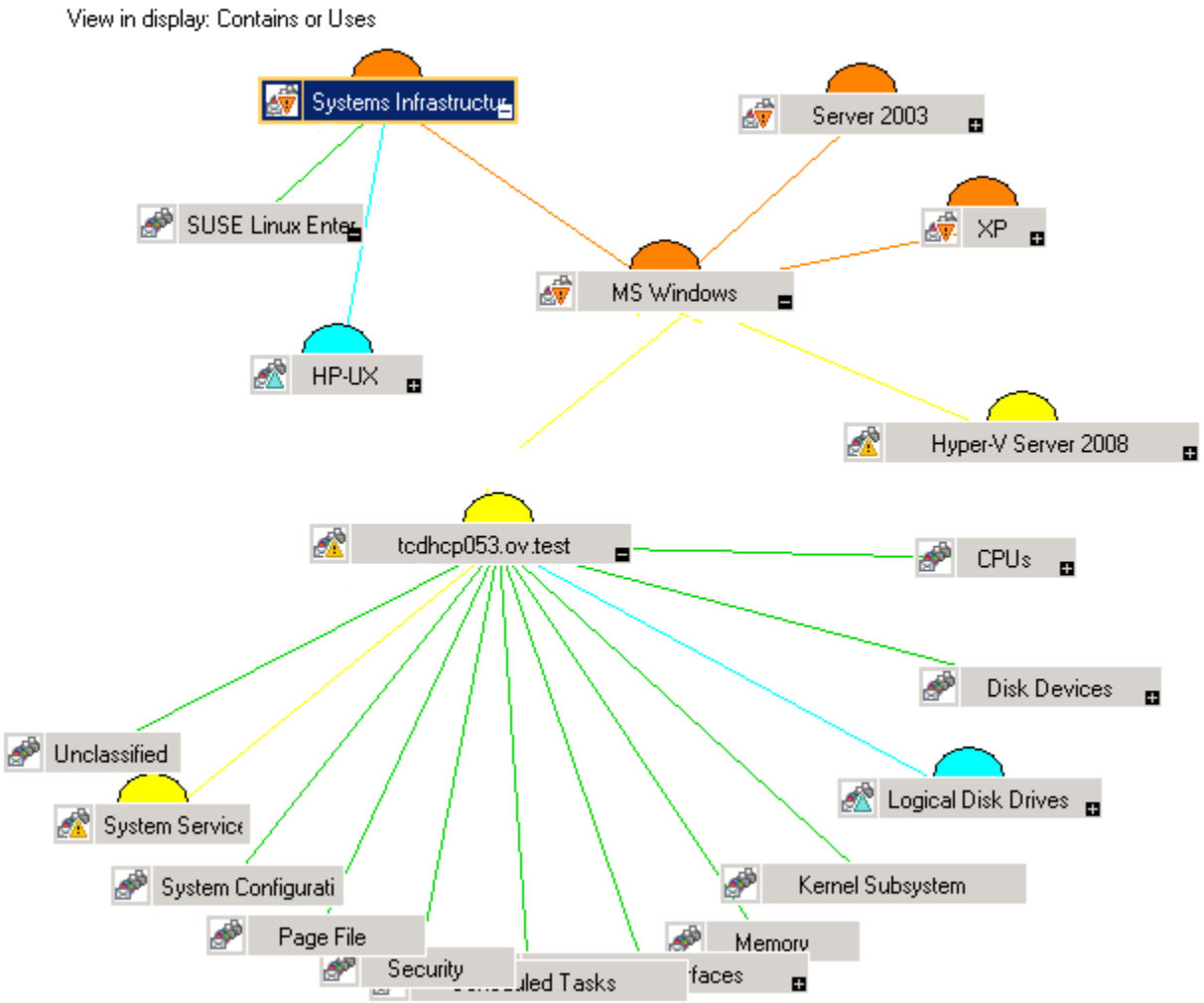
Systems Infrastructure SPI は、管理ノードの動作、可用性、パフォーマンスを監視するための設定済みポリシーとツールを提供します。これらのポリシーおよびツールと検出機能を組み合わせて使用することにより、IT インフラストラクチャの重要な要素をすばやくコントロールできます。

HPOM for Windows のマップ ビュー

HPOM コンソールにノードを追加すると、そのノードに Systems Infrastructure SPI service discovery ポリシーが自動的に配布されます。この情報は、ノードとサービスを示す Systems Infrastructure SPI のマップビューに反映されます。

マップ ビューには、インフラストラクチャ環境のリアルタイムな状態が表示されます。マップ ビューを表示するには、HPOM コンソールで **[サービス]** を選択し、**[System Infrastructure]** をクリックします。マップビューには、インフラストラクチャ環境のサービスまたはノードの階層構造全体が、サブシステムやサブサービスを含め、グラフィカルに表示されます。

図 1　HPOM for Windows のマップ ビュー



マップのアイコンや線は色分けされており、マップの項目の重要度レベルやステータス伝達が示されます。マップ ビューでは、ノードまたはサービス階層の問題が発生しているレベルにドリル ダウンできます。

サービス ビューに、検出された要素がグラフィカルに表示されることで、問題を迅速に診断できます。

- メッセージ ブラウザに表示された問題の根本原因を表示するには、**[表示]** → **[障害原因]** をクリックします。
- 問題の影響を受けているサービスとシステム コンポーネントを表示するには、**[表示]** → **[影響範囲]** をクリックします。

HPOM for UNIX のマップ ビュー

マップ ビューには、インフラストラクチャ環境のリアルタイムな状態が表示されます。管理サーバーで以下のコマンドを実行すると、HPOM for HP-UX、Solaris、Linux の操作 UI でオペレータがサービス ビューを表示できるようになります。

```
opcservice -assign <オペレータ名> SystemServices
```

オペレータ名には、サービスを割り当てるオペレータを指定します (例: opc_adm、opc_op)。

Systems Infrastructure SPI の service discovery ポリシーによってポリシーがノードに自動的に配布されることはありません。手動でポリシーを配布できます。

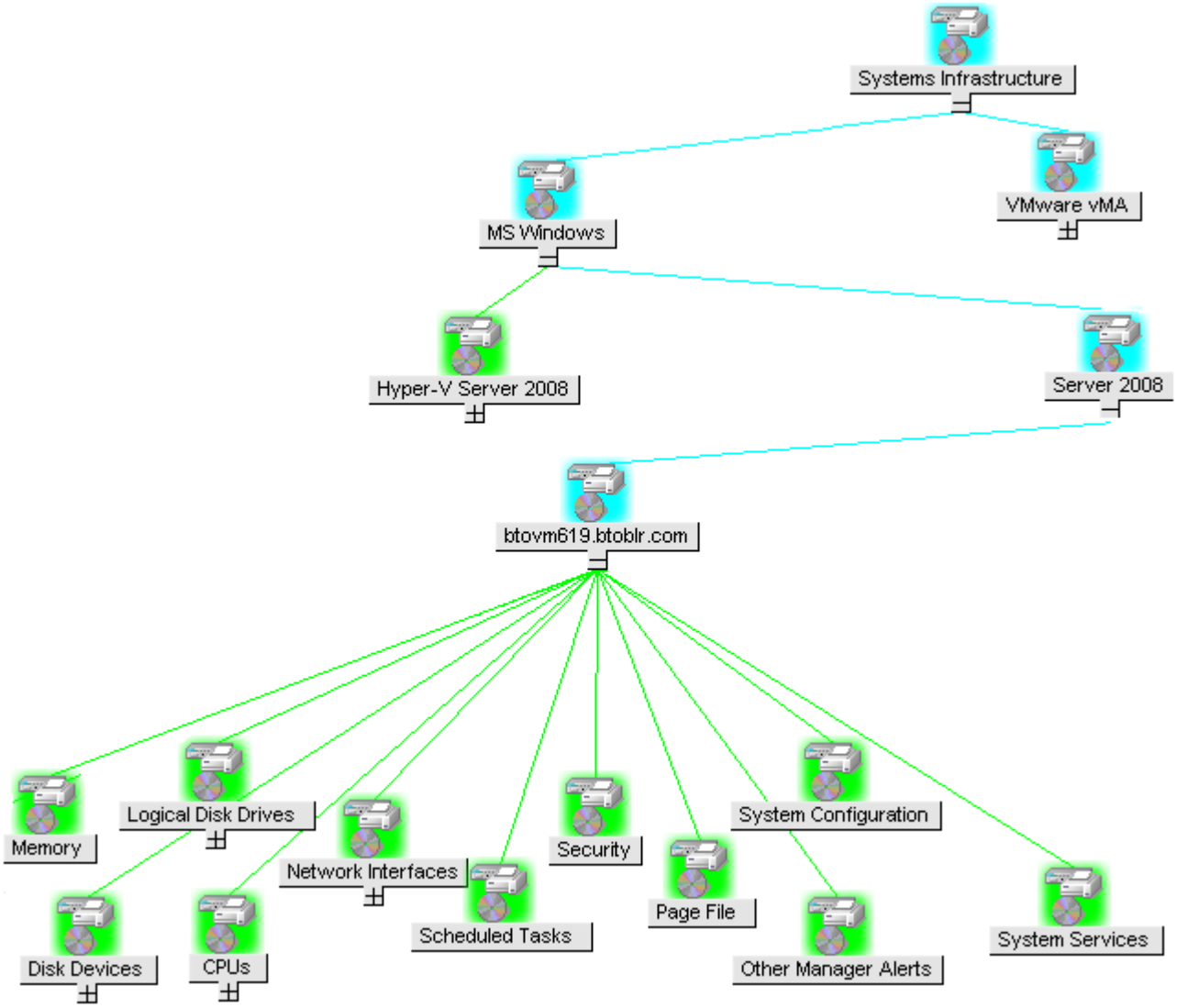
マップ ビューを表示するには、以下の手順を実行します。

1 HPOM の操作 UI を起動します。

2 ユーザー名とパスワードを使用してログオンします。

3 **[サービス]** → **[Systems Infrastructure]** → **[グラフの表示]** を選択すると、マップ ビューが表示されます。

図 2 HPOM for UNIX/Linux/Solaris のマップ ビュー



マップ ビューには、インフラストラクチャ環境のサービスまたはノードの階層構造全体が、サブシステムやサブサービスを含め、グラフィカルに表示されます。

ツール

Systems Infrastructure SPI ツールでは、特定の管理ノードに関して収集したデータが表示されます。System Infrastructure SPI のツールの詳細は、「Systems Infrastructure SPI ツール」を参照してください。

ポリシー

HPOM for Windows では、インストール時に複数のデフォルト ポリシーがサポートされている管理ノードに自動的に配布されます。これらをそのまま使用して、システム インフラストラクチャに関するデータや環境からのメッセージの受信を開始できます。サービス検出時にポリシーを自動配布する設定をオフにすることができます。また、設定済みのポリシーを変更して新しい名前で保存し、目的に応じたカスタム ポリシーを作成することもできます。

管理サーバーからのポリシーの配布の詳細は、「HPOM for Windows 管理サーバーからの SI SPI ポリシーの配布」を参照してください。

HPOM for UNIX/Linux/Solaris では、Systems Infrastructure SPI の Service Discovery ポリシーによってポリシーがノードに自動的に配布されることはありません。手動でポリシーを配布できます。

管理サーバーからのポリシーの配布の詳細は、「HPOM for UNIX 管理サーバーからの SI SPI ポリシーの配布」(103ページ) を参照してください。

Systems Infrastructure SPI ポリシーの名前は、わかりやすく、簡単に変更できるように、SI で始まっています。ポリシー タイプは以下のとおりです。

- **Service/Process Monitoring ポリシー**は、システム サービスおよびプロセスを監視する手段を提供します。
- **Logfile Entry ポリシー**は、システム ノードによって生成されたステータス メッセージおよびエラー メッセージをキャプチャします。
- **Measurement Threshold ポリシー**は、収集されたメトリック値を解釈し、アラートやメッセージをメッセージ ブラウザで表示できるように、各メトリックの条件を定義します。各 Measurement Threshold ポリシーは、実際のメトリック値と指定したしきい値/自動しきい値を比較して、実際のメトリック値がしきい値に反する場合、問題を解決するためのメッセージや指示文が表示されます。
- **Scheduled Task ポリシー**は、収集の対象となるメトリック値と、収集を開始する時間を定義します。収集間隔も定義します。収集間隔は、特定のグループに対するデータの収集頻度を示します。Scheduled Task ポリシーには 2 つの機能があります。ノードの収集間隔ごとにコレクタ/アナライザを実行する機能と、ポリシーの **[コマンド]** テキスト ボックス内に表示されているすべてのメトリックのデータを収集する機能です。
- **Service Discovery ポリシー**は、個々のシステム ノード インスタンスを検出し、Systems Infrastructure SPI で検出されたすべてのインスタンスを含むマップ ビューを生成します。

Systems Infrastructure SPI のポリシーの詳細は、「Systems Infrastructure SPI のポリシー」を参照してください。

グラフ

Systems Infrastructure SPI では、監視対象の要素の正常域の動作に矛盾が生じた場合に原因を表示して追跡できます。HPOM は、HP Performance Manager と統合されています。これは、システム パフォーマンスの評価、使用率の傾向の把握、システム間でのパフォーマンス比較を行う Web ベース ツールです。HP Performance Manager では、以下の表示が可能です。

- グラフ (折れ線グラフ、棒グラフ、面グラフなど)
- データ表 (プロセス詳細など)
- ベースライン グラフ
- Java 形式の動的グラフによって、個々のメトリックの表示をオフにしたり、グラフ上の点の値を表示したりすることができます。

データをグラフィカルに表示することで、レポートされた重大または危険域のエラー メッセージをすばやく簡単に分析できます。Systems Infrastructure SPI のグラフの詳細は、「Systems Infrastructure SPI のグラフ」を参照してください。

レポート

HP Reporter をインストールして Systems Infrastructure SPI と統合することにより、メトリック データを使った Web ベース レポートを生成できます。

HP Reporter を Windows 向けの HPOM 管理サーバーにインストールした場合、コンソールからレポートを表示できます。レポートを表示するには、コンソール ツリーで **[Reports]** を展開し、個別のレポートをダブルクリックします。

HP Reporter を HPOM 管理サーバー (Windows、UNIX、Linux、または Solaris オペレーティング システム向け) に接続されている別のシステムにインストールした場合、HP Reporter システムでレポートを表示できます。HP Reporter と HPOM を統合する方法の詳細は、『HP Reporter インストールおよび特別構成ガイド』を参照してください。

Systems Infrastructure SPI のレポートの詳細は、「Systems Infrastructure SPI のレポート」を参照してください。

第 4 章 Systems Infrastructure SPI のポリシーとツール

Systems Infrastructure SPI には、インフラストラクチャの管理に役立つさまざまなポリシーとツールがあります。ポリシーを使用してシステムを監視し、それらのシステムについて収集されたデータをツールで表示できます。

Systems Infrastructure SPI のポリシー

ポリシーは、監視を自動化するための 1 つまたは複数のルールです。SI SPI のポリシーを使用して、Windows、Linux、Solaris、AIX、HP-UX の各環境を監視できます。ほとんどのポリシーはすべての環境に共通ですが、特定の環境でのみ使用できたり、該当するプラットフォームでのみ配布する必要があるポリシーもあります。サポートされていないプラットフォームにポリシーを配布すると、予期しない動作が発生したり、ポリシーにエラーが発生したりすることがあります。

[Infrastructure Management] フォルダには、言語で分類されたサブグループがあります。たとえば、英語のポリシーのサブグループは **[en]**、日本語のポリシーのサブグループは **[ja]**、簡体中国語のポリシーのグループは **[zh]** です。

HPOM for UNIX/Linux/Solaris のコンソール/管理者用 UI からポリシーにアクセスするには、次を選択します。

[登録ポリシー] → [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure]

管理サーバーからのポリシーの配布の詳細は、「HPOM for UNIX 管理サーバーからの SI SPI ポリシーの配布」(103ページ) を参照してください。

トレース

キャパシティとパフォーマンスを監視するポリシーには、トレース用に Debug または DebugLevel スクリプト パラメータが含まれます。このパラメータを指定することで、トレースを有効にできます。次のいずれかの値を指定できます。

- Debug=0、トレース メッセージは送信されません。
- Debug=1、トレース メッセージがコンソールに送信されます。
- Debug=2、トレース メッセージが管理ノード上のトレース ファイルに記録されます。管理ノード上のトレース ファイルの場所は、`$OvDataDir/Log` です。

スクリプト パラメータを確認するには、以下の手順を実行します。

1. Root ユーザーでログインします。
2. 目的のポリシーをダブルクリックします。ポリシー ウィンドウが開きます。
3. [スクリプト パラメータ] タブを選択します。そのポリシーのスクリプト パラメータが一覧表示されます。

また、パラメータ値はユーザー要件に応じて変更できます。スクリプト パラメータの値を編集する方法の詳細は、『HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure コンセプト ガイド』を参照してください。

検出ポリシー

SI-SystemDiscovery_ja_JP ポリシーは、ハードウェア リソース、オペレーティング システム属性、アプリケーションなどのサーバー情報を管理ノードから収集します。

HPOM コンソールのノード グループにノードを追加すると、SI-SystemDiscovery_ja_JP ポリシーと供に配布された検出モジュールがノード上でサービスの検出を実行します。このサービス検出モジュールは、収集した情報を XML スニペットの形式で HPOM に返します。このスニペットは、Systems Infrastructure SPI 検出プロセスを実行する時点で、管理ノード上のサービスのスナップショットを取得し、これを示すサービス ツリーを作成します。Autodiscovery ポリシーは、配布後、定期的に実行されるように設定されます。検出エージェントは、収集したサービス情報と前回実行時の結果を比較します。前回実行時から、管理ノード上で実行中のサービスに変更や追加が見つかった場合、HPOM 管理サーバーにメッセージを送信し、管理サーバーがサービス ビューに変更内容を反映します。このポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [AutoDiscovery]

検出の制限

SI-ConfigureDiscovery_ja_JP ポリシーは、仮想マシン上の指定されたリソースの検出を対象にするか除外できる ConfigFile ポリシーです。

デフォルトでは、SI-SystemDiscovery_ja_JP ポリシーは、ノードで実行されているすべてのサービスとリソースを検出します。ただし、サービス マップ内のすべてのリソースを表示する必要がない場合があります。

検出を制限するには、検出ポリシーを実行する前に、SI-ConfigureDiscovery_ja_JP ポリシーを配布する必要があります。

SI-ConfigureDiscovery_ja_JP ポリシーには、Infrastructure SPI がサポートしているすべての仮想化テクノロジで、すべての仮想マシン上のリソースを対象にするか除外する構成スイッチがあります。

このポリシーをノードに配布すると、`SIDiscovery.cfg` 構成ファイルが次のフォルダに保存されます。

UNIX:`/var/opt/OV/conf/sispi/configuration`

Windows: `%Ovdatadir%\Data\conf\sispi\configuration`

`SIDiscovery.cfg` ファイルが `/var/opt/OV/conf/sispi/configuration/` フォルダに存在しない場合、SI 検出はデフォルトですべてのリソースを検出します。

`SIDiscovery.cfg` ファイルには、次の情報が含まれています。

```
#To include or exclude a particular resource in SI discovery, add the particular
value under the respective Resource.
#The resources which can be restricted or expanded for being discovered are
mentioned below:
#
#File System
#Disk
#Network
#CPU
#
#The values which can be part of the INCLUDE and EXCLUDE parameters with respect to
each of the resources can be as follows:
#
```

```
#FS include or exclude parameters should contain File system path(In general
FS_DIRNAME value)
#Example:
#FS_INCLUDE:     /etc*Or
#FS_EXCLUDE:     /zones*
#
#FS include or exclude parameters should contain File system path(In general
FS_DIRNAME value)
#Example:
#DSK_INCLUDE:vdc0Or
#DSK_EXCLUDE:vdc1
#
#NET include or exclude parameters should contain Network Interface name(In general
BYNETIF_NAME value)
#Example:
#NET_INCLUDE:lo0Or
#NET_EXCLUDE:vnet0
#
#CPU include or exclude parameters should contain ID number of the CPU (In general
BYCPU_ID value)
#Example:
#CPU_INCLUDE:0,1Or
#CPU_EXCLUDE:2,3
#
#Multiple entries should be separate with comma -
#For example if one wants to exclude 2 of the File Systems, then the following
entry should configured:
#FS_INCLUDE:/zones*,/etc*
#
#Resource Name and value should be separated with ":"-
#For example if one wants to add FS_EXCLUDE, then the following entry should be
configured separated with ":"
#FS_EXCLUDE:     /zones*
#
#Different resources(_INCLUDE and _EXCLUDE) should be separated with "===".As in
the below case, FS, DSK, NET and CPU are
#separated with "==="
##########################################################################################
##############################################
===
FS_INCLUDE:
FS_EXCLUDE:     /zones*
===
DSK_INCLUDE:
DSK_INCLUDE:
===
NET_INCLUDE:
NET_INCLUDE:
===
CPU_INCLUDE:
CPU_EXCLUDE:
```

リソースを検出の対象にするか除外するには、ファイルに記載されている指示に従って `SIDiscovery.cfg` ファイルを編集します。

INCLUDE パラメータに特定のリソース名を入力した場合、SI 検出では、それらのリソースのみ検出されてサービス マップに表示されます。EXCLUDE パラメータに特定のリソース名を入力した場合、SI 検出では、それらのリソースは検出されず、サービス マップに表示されません。

リソース名全体を指定するか、ワイルドカード (*****) を使用できます。

設定できるパラメータは 1 つのみで、EXCLUDE または INCLUDE のいずれかです。両方のパラメータに値を設定した場合や、いずれのパラメータにも値を設定しない場合は、SI 検出ポリシーでは、デフォルトですべてのリソースが検出されます。

INCLUDE パラメータに誤ったインスタンス値を設定すると、SI 検出では、その特定のリソース インスタンスが検出されず、重要度が注意域の次のアラート メッセージが HPOM コンソールに送信されます。

```
Improper usage as _INLUCDE parameter is not having the correct value.
```

ただし、EXCLUDE パラメータに誤ったインスタンス値を設定した場合は、SI 検出によってそのリソース インスタンスが検出されます。

SI-SystemDiscovery_ja_JP ポリシーは、`SIDiscovery.cfg` ファイルを開くか読み取れない場合、重要度が注意域の次のアラート メッセージを HPOM コンソールに送信します。

```
Improper usage as both _INCLUDE and _EXCLUDE are configured.
```

例

email server、webserver1、webserver2 という名前の 3 つの非グローバル ゾーンを持つ Oracle Solaris コンテナー上には、次のような複数のファイル システムがある可能性があります。

```
/etc/svc/volatile
/tmp
/var/run
/zones/emailserver/root/etc/svc/volatile
/zones/emailserver/root/tmp
/zones/emailserver/root/var/run
/zones/webserver1/root/etc/svc/volatile
/zones/webserver1/root/tmp
/zones/webserver1/root/var/run
/zones/webserver2/root/etc/svc/volatile
/zones/webserver2/root/tmp
/zones/webserver2/root/var/run
```

- 特定のファイル システムのみ検出する場合、INCLUDE パラメータに次のいずれかの値を入力して、`SIDiscovery.cfg` ファイルを変更します。
  - `FS_INCLUDE:` **`/zones/webserver2*`**
  - `FS_INCLUDE:` **`/zones/webserver2/root/etc/svc/volatile`**
- 特定のファイル システムを検出しない場合、EXCLUDE パラメータに次のいずれかの値を入力して、`SIDiscovery.cfg` ファイルを変更します。
  - `FS_EXCLUDE:`**`/zones/emailserver*`**
  - `FS_EXCLUDE:` **`/zones/emailserverroot/tmp`**

可用性ポリシー

可用性の監視を行い、リソースの可用性を確保します。リソースの可用性について、許容できないレベルを特定することが重要です。IT インフラストラクチャの現在の負荷を計算し、しきい値と比較することによって、リソースの可用性に不足部分がないかチェックします。

IT リソースの使用状況が変化し機能が拡張すると、ディスク容量、処理能力、メモリなどのパラメータも変化します。現在のニーズと、時間の経過に伴ってニーズがどのように変化するかを把握することが重要です。一定の期間にわたってこれらの要素を監視することは、IT リソースの使用率に対する影響を理解する上で役に立ちます。

サーバーの役割では、Fax サーバーや電子メール サーバーなどの主要機能を記述します。1 つのシステムに、サーバーの役割を 1 つまたは複数インストールすることができます。各サーバーの役割には、その役割の子要素として、1 つまたは複数のサービスを指定できます。可用性ポリシーは、管理ノード上にある役割サービスの可用性を監視します。

設定済み可用性ポリシーの管理対象となる役割サービスが、Systems Infrastructure SPI で選択したノード上で検出されると、このポリシーが自動的にインストールされます。これらのポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Availability]

可用性ポリシーは、Linux、Windows、Solaris、AIX、HP-UX の各管理ノード上で、プロセスやサービスの可用性を監視します。プロセスが使用不能状態に陥るか、サービスのステータスが変化すると (停止または無効になる)、ポリシーは HPOM にメッセージを送信します。ポリシーでは、監視対象となるステータスと、ステータスが変化した時点で実行するアクションを定義できます。

可用性ポリシーは、サーバー役割ごとにグループに分類し、さらにオペレーティング システムごとにサブ グループに分類することができます。また、管理ノード上で稼働するオペレーティング システムに基づいて、必要なポリシーを選択できます。

プロセスとサービスを監視するポリシー

これらのポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Availability] → [<プロセス/サービス>] → [<os>]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [<os> - Advanced]**

<os> はオペレーティング システムを示し、AIX、HP-UX、RHEL、SLES、Windows、Solaris のいずれかです。次の表では、プロセスとサービス、各プラットフォームでサポートされる監視ポリシーをまとめます。

Infrastructure SPIs では、Solaris ゾーンでプロセスを監視する可用性ポリシーが用意されています。Solaris マシンには、グローバル ゾーンとローカル ゾーン (コンテナ) があります。可用性ポリシーは、Solaris プロセスの可用性を監視し、使用不能状態を検出すると、HPOM に警告メッセージを送信します。

表 1　AIX 用の監視ポリシー

プロセス/サービス名	監視ポリシー
DHCP Server	SI-AIXDHCPProcessMonitor_ja_JP
DNS Server	SI-AIXNamedProcessMonitor_ja_JP
Email Service	SI-AIXSendmailProcessMonitor_ja_JP

表 1　AIX 用の監視ポリシー

プロセス/サービス名	監視ポリシー
Fax Service	-
File Services	SI-AIXNfsServerProcessMonitor_ja_JP
Firewall Service	-
Internet Service	SI-AIXInetdProcessMonitor_ja_JP
Network Services	-
Print Service	• SI-AIXQdaemonProcessMonitor_ja_JP • SI-AIXLpdProcessMonitor_ja_JP
RPC Service	SI-AIXPortmapProcessMonitor_ja_JP
Scheduled Job Service	SI-AIXCronProcessMonitor_ja_JP
Secure Login Service	SI-OpenSshdProcessMonitor_ja_JP[1]
SNMP Service	SI-UnixSnmpdProcessMonitor_ja_JP
System Logger	SI-AIXSyslogProcessMonitor_ja_JP
Terminal Services	-
Web Server	SI-AIXWebserverProcessMonitor_ja_JP

表 2　HP-UX 用の監視ポリシー

プロセス/サービス名	監視ポリシー
DHCP Server	SI-HPUXBootpdProcessMonitor_ja_JP
DNS Server	SI-HPUXNamedProcessMonitor_ja_JP
Email Service	SI-HPUXSendmailProcessMonitor_ja_JP
Fax Service	-
File Services	SI-HPUXNfsServerProcessMonitor_ja_JP
Firewall Service	-
Internet Service	SI-HPUXInetdProcessMonitor_ja_JP
Network Services	-
Print Service	SI-HPUXLpschedProcessMonitor_ja_JP
RPC Service	-
Scheduled Job Service	SI-HPUXCronProcessMonitor_ja_JP
Secure Login Service	• SI-HPUXSshdProcessMonitor_ja_JP • SI-OpenSshdProcessMonitor_ja_JP[1]
SNMP Service	SI-UnixSnmpdProcessMonitor_ja_JP

表 2　HP-UX 用の監視ポリシー

プロセス/サービス名	監視ポリシー
System Logger	SI-HPUXSyslogProcessMonitor_ja_JP
Terminal Services	-
Web Server	SI-HPUXWebserverProcessMonitor_ja_JP

表 3　RHEL 用の監視ポリシー

プロセス/サービス名	監視ポリシー
DHCP Server	SI-LinuxDHCPProcessMonitor_ja_JP
DNS Server	SI-LinuxNamedProcessMonitor_ja_JP
Email Service	SI-LinuxSendmailProcessMonitor_ja_JP
Fax Service	-
File Services	• SI-LinuxNfsServerProcessMonitor_ja_JP • SI-LinuxSmbServerProcessMonitor_ja_JP
Firewall Service	-
Internet Service	SI-LinuxXinetdProcessMonitor_ja_JP
Network Services	-
Print Service	SI-LinuxCupsProcessMonitor_ja_JP
RPC Service	-
Scheduled Job Service	SI-RHELCronProcessMonitor_ja_JP
Secure Login Service	• SI-LinuxSshdProcessMonitor_ja_JP • SI-OpenSshdProcessMonitor_ja_JP[1]
SNMP Service	SI-UnixSnmpdProcessMonitor_ja_JP
System Logger	SI-RHELSyslogProcessMonitor_ja_JP
Terminal Services	-
Web Server	SI-LinuxWebserverProcessMonitor_ja_JP

表 4　SLES 用の監視ポリシー

プロセス/サービス名	SLES
DHCP Server	SI-LinuxDHCPProcessMonitor_ja_JP
DNS Server	SI-LinuxNamedProcessMonitor_ja_JP
Email Service	SI-LinuxSendmailProcessMonitor_ja_JP
Fax Service	-

表 4　SLES 用の監視ポリシー

プロセス/サービス名	SLES
File Services	• SI-LinuxNfsServerProcessMonitor_ja_JP • SI-LinuxSmbServerProcessMonitor_ja_JP
Firewall Service	-
Internet Service	SI-LinuxXinetdProcessMonitor_ja_JP
Network Services	-
Print Service	SI-LinuxCupsProcessMonitor_ja_JP
RPC Service	-
Scheduled Job Service	SI-SLESCronProcessMonitor_ja_JP
Secure Login Service	• SI-LinuxSshdProcessMonitor_ja_JP • SI-OpenSshdProcessMonitor_ja_JP[1]
SNMP Service	SI-UnixSnmpdProcessMonitor_ja_JP
System Logger	SI-SLESSyslogProcessMonitor_ja_JP
Terminal Services	-
Web Server	SI-LinuxWebserverProcessMonitor_ja_JP

表 5　Solaris 用の監視ポリシー

プロセス/サービス名	監視ポリシー
DHCP Server	SI-SunSolarisDHCPProcessMonitor_ja_JP
DNS Server	SI-SunSolarisNamedProcessMonitor_ja_JP
Email Service	SI-SunSolarisSendmailProcessMonitor_ja_JP
Fax Service	-
File Services	SI-SunSolarisNfsServerProcessMonitor_ja_JP
Firewall Service	-
Internet Service	SI-SunSolarisInetdProcessMonitor_ja_JP
Network Services	-
Print Service	SI-SunSolarisLpdProcessMonitor_ja_JP
RPC Service	-
Scheduled Job Service	SI-SunSolarisCronProcessMonitor_ja_JP
Secure Login Service	• SI-SunSolarisSshdProcessMonitor_ja_JP • SI-OpenSshdProcessMonitor_ja_JP[1]
SNMP Service	SI-UnixSnmpdProcessMonitor_ja_JP

表 5　Solaris 用の監視ポリシー

プロセス/サービス名	監視ポリシー
System Logger	SI-SunSolarisSyslogProcessMonitor_ja_JP
Terminal Services	-
Web Server	SI-SunSolarisWebserverProcessMonitor_ja_JP

表 6　Windows 用の監視ポリシー

プロセス/サービス名	監視ポリシー
DHCP Server	SI-MSWindowsDHCPServerRoleMonitor_ja_JP
DNS Server	SI-MSWindowsDNSServerRoleMonitor_ja_JP
Email Service	-
Fax Service	SI-MSWindowsFaxServerRoleMonitor_ja_JP
File Services	• SI-MSWindowsWin2k3FileServicesRoleMonitor_ja_JP • SI-MSWindowsDFSRoleMonitor_ja_JP • SI-MSWindowsFileServerRoleMonitor_ja_JP • SI-MSWindowsNFSRoleMonitor_ja_JP
Firewall Service	SI-MSWindowsFirewallRoleMonitor_ja_JP
Internet Service	-
Network Services	• SI-MSWindowsRRAServicesRoleMonitor_ja_JP • SI-MSWindowsNetworkPolicyServerRoleMonitor_ja_JP
Print Service	SI-MSWindowsPrintServiceRoleMonitor_ja_JP
RPC Service	SI-MSWindowsRpcRoleMonitor_ja_JP
Scheduled Job Service	SI-MSWindowsTaskSchedulerRoleMonitor_ja_JP
Secure Login Service	SI-OpenSshdProcessMonitor_ja_JP[1]
SNMP Service	SI-MSWindowsSnmpProcessMonitor_ja_JP
System Logger	SI-MSWindowsEventLogRoleMonitor_ja_JP
Terminal Services	• SI-MSWindowsTSWebAccessRoleMonitor_ja_JP • SI-MSWindowsTSGatewayRoleMonitor_ja_JP • SI-MSWindowsTerminalServerRoleMonitor_ja_JP • SI-MSWindowsTSLicensingRoleMonitor_ja_JP
Web Server	SI-MSWindowsWebServerRoleMonitor_ja_JP

[1] このポリシーは、AIX、HP-UX、Linux、MS Windows、Solaris の各オペレーティング システムでサポートされます。いずれのプラットフォームでも、このポリシーを配布する場合は、事前に openssh パッケージをインストールしてください。

最新の Solaris 用プロセス監視ポリシーをグローバル ゾーンに配布した場合、SI SPI では、プロセスが属しているゾーンを区別せずに、グローバル ゾーンと非グローバル ゾーンで実行中のすべてのプロセスを監視します。したがって、グローバル ゾーンで実行されるプロセスを監視する場合、非グローバルのプロセスを含めるようにしきい値レベルを設定する必要があります。

例: グローバル ゾーンの一部となっている非グローバル ゾーンが「x」個ある場合、しきい値レベルは、グローバル ゾーンと非グローバル ゾーンのすべてのプロセスを含めるように、つまり、x+1 に設定する必要があります。

グローバル ゾーンとグローバル ゾーンの一部となっている非グローバル ゾーンに同じポリシーを配布すると、重複したアラートが送信されます。

非グローバル ゾーンでサポートされないポリシー

- SI-CPUSpikeCheck_ja_JP
- SI-PerNetifInbyteBaseline-AT_ja_JP
- SI-PerNetifOutbyteBaseline-AT_ja_JP
- SI-PerDiskAvgServiceTime-AT_ja_JP
- SI-PerDiskUtilization-AT_ja_JP

ハードウェア監視ポリシー

System Infrastructure SPI 2.00 には、HP ProLiant サーバーの正常性とステータスを監視できるポリシーが用意されています。これらのポリシーは、SIM エージェントによって生成される SNMP トラップを監視し、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。これらのポリシーのタイプは、すべて SNMP Interceptor です。

これらのポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Hardware] → [HP ProLiant]

必要な設定:

- SNMP サービスが実行中であることを確認します。
- ハードウェア監視を有効にするには、ノードの `xpl config` ファイルを開き、`eaagt` ネームスペースの下に次の行を追加します。
  - HP Operations Agent 8.60 を使用している場合、次の行を追加します。

    ```
    [eaagt]
    SNMP_SESSION_MODE=NO_TRAPD
    ```

  - HP Operations Agent 11.00 を使用している場合、次の行を追加します。

    ```
    [eaagt]
    SNMP_SESSION_MODE=NETSNMP
    ```

- SIM Agent がインストールされている Linux ノードで、`/etc/snmp/snmpd.conf` に格納されている SNMP 設定ファイルを開き、末尾に次の行を追加します。

  ```
  trapsink <ノードのホスト名>
  ```

- Windows ノードで、次の SIM Agent がインストールされていることを確認します。
  - Foundation Agent
  - NIC Agent
  - Server Agent

- Storage Agent

インストールされていない場合は、HP Insight Management for the Windows Servers 2003/2008 x64 Edition をインストールします。

Server Health Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_CPQHLTHTraps_ja_JP

SI-HPProLiant_CPQHLTHTraps_ja_JP ポリシーは、サーバーの正常性に関連する SNMP トラップをインターセプトし、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。このポリシーが監視する SNMP トラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.2.1.11.6.0	coldStart。
1.3.6.1.2.1.11.6.1	warmStart。
1.3.6.1.2.1.11.6.2	linkDown。
1.3.6.1.2.1.11.6.3	linkUp。
1.3.6.1.4.1.232.0.6003	システムは、この温度状態によりシャットダウンします。
1.3.6.1.4.1.232.0.6017	システムは、この温度状態によりシャットダウンします。
1.3.6.1.4.1.232.0.6004	温度が範囲外です。シャットダウンが行われる場合があります。
1.3.6.1.4.1.232.0.6018	温度が範囲外です。シャットダウンが行われる場合があります。
1.3.6.1.4.1.232.0.6019	温度が正常範囲に戻りました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6005	温度が正常範囲に戻りました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6040	SNMP Varbind 3 に含まれるシャーシ、SNMP Varbind 4 に含まれる位置の温度ステータスが障害になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6041	SNMP Varbind 4 に含まれるシャーシ、SNMP Varbind 5 に含まれる位置の温度ステータスが機能低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6041	SNMP Varbind 4 に含まれるシャーシ、SNMP Varbind 5 に含まれる位置の温度が範囲外です。間もなくシャットダウンが行われる場合があります。
1.3.6.1.4.1.232.0.6042	SNMP Varbind 3 に含まれるシャーシ、SNMP Varbind 4 に含まれる位置の温度ステータスが正常です。
1.3.6.1.4.1.232.0.6007	オプション ファンが正常に動作していません。
1.3.6.1.4.1.232.0.6021	オプション ファンが正常に動作していません。
1.3.6.1.4.1.232.0.6006	必須ファンが正常に動作していません。シャットダウンが行われる場合があります。
1.3.6.1.4.1.232.0.6020	必須ファンが正常に動作していません。
1.3.6.1.4.1.232.0.6020	システム ファンに障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6022	システム ファンが正常動作に戻りました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6008	システム ファンが正常動作に戻りました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6009	CPU ファンに障害が発生しました。サーバーはシャットダウンします。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.6010	CPU ファンが良好になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6023	CPU ファンに障害が発生しました。サーバーはシャットダウンします。
1.3.6.1.4.1.232.0.6024	CPU ファンが良好になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6035	SNMP Varbind 3 に含まれるシャーシ、SNMP Varbind 4 に含まれる位置でファンが機能低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6036	SNMP Varbind 3 に含まれるシャーシ、SNMP Varbind 4 に含まれる位置でファンが障害になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6037	SNMP Varbind 3 に含まれるシャーシでファンが冗長ではなくなりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6055	指定されたシャーシで耐障害ファンが冗長ステータスに戻りました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6048	SNMP Varbind 3 のシャーシで電源は良好です。
1.3.6.1.4.1.232.0.6049	SNMP Varbind 3 のシャーシで電源が機能低下です。
1.3.6.1.4.1.232.0.6050	SNMP Varbind 3 のシャーシで電源が障害状態です。
1.3.6.1.4.1.232.0.6014	電源ステータスが機能低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6028	電源ステータスが機能低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6030	SNMP Varbind 3 に含まれるシャーシ、SNMP Varbind 4 に含まれるベイで電源が機能低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6054	耐障害電源の電源冗長性が復旧しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6031	SNMP Varbind 3 に含まれるシャーシ、SNMP Varbind 4 に含まれるベイで電源が障害になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6032	SNMP Varbind 3 に含まれるシャーシで電源が冗長ではなくなりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6043	SNMP Varbind 3 のシャーシ、SNMP Varbind 4 のスロット、SNMP Varbind 5 のソケットで電源コンバーターが機能低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6044	SNMP Varbind 3 のシャーシ、SNMP Varbind 4 のスロット、SNMP Varbind 5 のソケットで電源コンバーターが障害になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6045	SNMP Varbind 3 に含まれるシャーシで電源コンバーターが冗長ではなくなりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6012	サーバーは、熱によるシャットダウンの後に再度動作状態になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6027	サーバーの再起動中にエラーが発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6059	メモリ ボードやカートリッジ バスのエラーが検出されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6063	管理プロセッサーはリセットできませんでした。
1.3.6.1.4.1.232.0.6025	サーバーは、ASR によるシャットダウンの後に再度動作状態になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6016	メモリ エラー数が多すぎるため、トラッキングが無効になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6016	エラー トラッキングが有効になりました。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.6002	メモリ エラー数が多すぎるため、トラッキングが無効になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6026	サーバーは、熱によるシャット ダウンの後に再度動作状態になり ました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6061	管理プロセッサーが現在リセット状態です。
1.3.6.1.4.1.232.0.6062	管理プロセッサーが準備を完了しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.6013	サーバーの再起動中にエラーが発生しました。

このポリシーには、これらの各 SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラート メッセージが自動的に確認されます。

RAID Controller Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_CPQRCTraps_ja_JP

SI-HPProLiant_CPQRCTraps_ja_JP ポリシーは、RAID コントローラーのパフォーマンスと可用性に関連する SNMP トラップをインターセプトし、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。このポリシーが監視するトラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.141.3.8.0.27	拡張キャビネット内の温度により重大状態がトリガーされ、コントローラーにより検出されました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.8.6.26	cpqCrExpCabTemperatureWarningTrap。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.8.0.22	拡張キャビネット内のいずれかの電源に障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.8.0.20	拡張キャビネット内のファンに障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.7.0.25	プライマリ エンクロージャ内の温度が正常に戻りました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.2.0.2	サブシステム内のプライマリ コントローラーが復旧しました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.8.0.29	拡張キャビネット内のいずれかの電源が復旧しました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.3.0.6	RAIDset に障害が発生したか、RAIDset がオフラインです。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.8.0.28	拡張キャビネット内の温度が正常に戻りました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.2.0.1	サブシステム内のプライマリ コントローラーに障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.7.0.16	プライマリ エンクロージャ内のいずれかの冷却ファンに障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.2.0.4	サブシステム内のセカンダリ コントローラーが復旧しました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.7.0.19	プライマリ エンクロージャ内のいずれかの電源が復旧しました。
.1.3.6.1.4.1.232.141.3.5.6.31	cpqCrPhyDiskFailureTrap。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.7.0.24	プライマリ エンクロージャ内の温度により重大状態がトリガーされ、コントローラーにより検出されました。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.141.3.5.0.10	ディスク デバイスが復旧しました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.7.0.17	プライマリ エンクロージャ内のいずれかの冷却ファンが復旧しました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.5.6.30	cpqCrPhyDiskInformationTrap。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.2.0.3	サブシステム内のセカンダリ コントローラーに障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.8.0.21	拡張キャビネット内のいずれかの冷却ファンが復旧しました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.5.0.11	ディスク デバイスに障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.7.0.23	プライマリ エンクロージャの温度が警告レベルです。
1.3.6.1.4.1.232.141.3.7.0.18	プライマリ エンクロージャ内のいずれかの電源に障害が発生しました。

このポリシーには、これらの各 SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラート メッセージが自動的に確認されます。

NIC Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_CPQNICTraps_ja_JP

SI-HPProLiant_CPQNICTraps_ja_JP ポリシーは、ネットワーク インターフェイス カード (NIC) のパフォーマンスと可用性に関連する SNMP トラップをインターセプトし、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。このポリシーが監視するトラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.11005	NIC ステータスは良好です。
1.3.6.1.4.1.232.0.11006	NIC ステータスが障害です。
1.3.6.1.4.1.232.0.11007	NIC スイッチオーバーが発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.11008	NIC ステータスは良好です。
1.3.6.1.4.1.232.0.11009	NIC ステータスが障害です。
1.3.6.1.4.1.232.0.11010	NIC スイッチオーバー。
1.3.6.1.2.1.11.6.2	linkDown。
1.3.6.1.2.1.11.6.3	linkUp。
1.3.6.1.4.1.232.0.18006	SNMP Varbind 3 に含まれるスロット、SNMP Varbind 4 に含まれるポートの論理アダプターで接続が失われました。
1.3.6.1.4.1.232.6.18012	cpqNic3ConnectivityLost。
1.3.6.1.4.1.232.6.18011	cpqNic3ConnectivityRestored。
1.3.6.1.4.1.232.0.18009	NIC ウイルス類似活動の検出トラップ。
1.3.6.1.4.1.232.0.18010	NIC ウイルス類似活動の検出なしトラップ。

このポリシーには、これらの各 SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラート メッセージが自動的に確認されます。

CMC Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_CPQCMCTraps_ja_JP

SI-HPProLiant_CPQCMCTraps_ja_JP ポリシーは、電力消費、煙、湿度、温度、ファンの観点から Console Management Controller (CMC) の正常性に関連する SNMP トラップをインターセプトします。また、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。

このポリシーが監視するトラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153013	CMC により検出されたラック内煙有無のステータスが Present です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153013	CMC により検出されたラック内煙有無のステータスが Normal です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153005	CMC への供給電圧のステータスが OverMax です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153005	CMC への供給電圧のステータスが UnderMin です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153005	CMC への供給電圧のステータスが Normal です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153001	CMC 温度センサー 1 により検出されたラック内温度が高しきい値を上回り ました。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153001	CMC 温度センサー 1 により 検出されたラック 内温度が最小しきい値を下回り ました。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153002	CMC 温度センサー 1 により検出されたラック内温度は正常です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153002	CMC 温度センサー 2 により検出されたラック内温度が高しきい値を上回り ました。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153002	CMC 温度センサー 2 により 検出されたラック 内温度が最小しきい値を下回り ました。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153002	CMC 温度センサー 2 により検出されたラック内温度は正常です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153006	湿度のステータスが OverMax です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153006	湿度のステータスが UnderMin です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153006	湿度のステータスが Normal です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153003	ラック内ファン 1 のステータスが Normal です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153003	ラック内ファン 1 のステータスが AutoOff です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153003	ラック内ファン 1 のステータスが SmokeOff です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153003	ラック内ファン 1 のステータスが DoorOff です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153004	ラック内ファン 2 のステータスが AutoOn です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153004	ラック内ファン 2 のステータスが AutoOff です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153004	ラック内ファン 2 のステータスが SmokeOff です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.153.0.153004	ラック内ファン 2 のステータスが DoorOff です。このステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。

このポリシーには、これらの各 SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラート メッセージが自動的に確認されます。

System Information Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_CPQSysInfoTraps_ja_JP

SI-HPProLiant_CPQSysInfoTraps_ja_JP ポリシーは、バッテリ、モニタ、ホット プラグ スロット ボード、フードの状態の観点から、システム情報に関連する SNMP トラップをインターセプトします。また、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。

このポリシーが監視するトラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.2012	バッテリ SNMP Varbind 3 の充電容量が機能低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.2011	バッテリ SNMP Varbind 3 に障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.2013	SNMP Varbind 3 に含まれるバッテリに調整エラーがあります。
1.3.6.1.4.1.232.0.2003	モニターの状態が機能低下に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.2004	モニターの状態が障害に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.2002	モニターの状態が良好に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.2006	メモリ モジュール ECC ステータスが良好に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.2005	メモリ モジュール ECC ステータスが機能低下に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.2009	SNMP Varbind 3 に含まれるシャーシ、SNMP Varbind 4 に含まれるスロットにホット プラグ スロット ボードが取り付けられました。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.2010	SNMP Varbind 3 に含まれるシャーシ、SNMP Varbind 4 に含まれるスロットでホット プラグ スロット ボードに障害が発生しました。このエラーは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.2008	シャーシからホット プラグ スロット ボードが取り外されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.2007	システムのメモリ構成が変更されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.2001	フードがユニットから取り外されています。

このポリシーには、これらの各 SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラート メッセージが自動的に確認されます。

Virtual Connect Domain Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_VCDomainTraps_ja_JP

SI-HPProLiant_VCDomainTraps_ja_JP ポリシーは、仮想接続ドメインに関連する SNMP トラップをインターセプトします。また、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。

このポリシーが監視するトラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.11.5.7.5.2.1.2.0.5	vcFcFabricManagedStatusChange
1.3.6.1.4.1.11.5.7.5.2.1.2.0.3	vcCheckpointCompleted
1.3.6.1.4.1.11.5.7.5.2.1.2.0.9	vcProfileManagedStatusChange
1.3.6.1.4.1.11.5.7.5.2.1.2.0.6	vcModuleManagedStatusChange
1.3.6.1.4.1.11.5.7.5.2.1.2.0.8	vcPhysicalServerManagedStatusChange
1.3.6.1.4.1.11.5.7.5.2.1.2.0.1	vcDomainManagedStatusChange
1.3.6.1.4.1.11.5.7.5.2.1.2.0.2	vcCheckpointTimeout

このポリシーには、これらの各 SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラート メッセージが自動的に確認されます。

Cluster Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_CPQCLUSTraps_ja_JP

SI-HPProLiant_CPQCLUSTraps_ja_JP ポリシーは、バッテリ、モニタ、ホット プラグ スロット ボード、フードの状態の観点から、クラスターに関連する SNMP トラップをインターセプトします。また、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。

このポリシーが監視するトラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.15001	SNMP Varbind 3 に含まれるクラスターが機能低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.15002	SNMP Varbind 3 に含まれるクラスターに障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.15003	SNMP Varbind 3 に含まれるノード上のクラスター サービスが低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.15004	SNMP Varbind 3 に含まれるノード上のクラスター サービスに障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.15007	SNMP Varbind 3 に含まれるクラスターリソースが低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.15005	SNMP Varbind 3 に含まれるクラスター リソースに障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.15008	SNMP Varbind 3 に含まれるクラスター ネットワークが機能低下状態になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.15006	SNMP Varbind 3 に含まれるクラスター ネットワークに障害が発生しました。

このポリシーには、これらの各 SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラート メッセージが自動的に確認されます。

Rack Power Manager Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_CPQRPMTraps_ja_JP

SI-HPProLiant_CPQRPMTraps_ja_JP ポリシーは、Rack Power Manager に関連する SNMP トラップをインターセプトします。また、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。

このポリシーが監視するトラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.154.2.1	UPS デバイスは、接続が失われたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.2	UPS デバイスは、接続が失われたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.3	CRPM は、デバイス ホスト名の IP アドレスを見つけられませんでした
1.3.6.1.4.1.232.154.2.4	CRPM はデバイスに接続できませんでした
1.3.6.1.4.1.232.154.2.5	cpqRPMTrapDeviceSettingsChanged
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10001	CMC デバイスは、温度 1 が最小しきい値を下回っていることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10002	CMC デバイスは、温度 1 が注意域しきい値を上回っていることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10003	CMC デバイスは、温度 1 が最大しきい値を上回っていることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10004	CMC デバイスは、温度 1 が正常に戻ったことを報告しています

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10005	CMC デバイスは、温度 2 が最小しきい値を下回っていることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10006	CMC デバイスは、温度 2 が注意域しきい値を上回っていることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10007	CMC デバイスは、温度 2 が最大しきい値を上回っていることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10008	CMC デバイスは、温度 2 が正常に戻ったことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10011	CMC デバイスは、電圧が最小しきい値を下回っていることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10012	CMC デバイスは、電圧が最大しきい値を上回っていることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10013	CMC デバイスは、電圧が正常に戻ったことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10021	CMC デバイスは、湿度が最小しきい値を下回っていることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10022	CMC デバイスは、湿度が最大しきい値を上回っていることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10023	CMC デバイスは、湿度が正常に戻ったことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10031	CMC デバイスは、煙が検出されたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10032	CMC デバイスは、煙が検出されなくなったことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10041	CMC デバイスは、衝撃が検出されたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10042	CMC デバイスは、衝撃が検出されなくなったことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10051	CMC デバイスは、補助入力 1 でアラーム状態になりました
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10052	CMC デバイスは、補助入力 1 のアラームが解決したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10053	CMC デバイスは、補助入力 2 でアラーム状態になりました
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10054	CMC デバイスは、補助入力 2 のアラームが解決したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10101	CMC デバイスは、入力 1 が開いたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10102	CMC デバイスは、入力 1 が閉じたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10103	CMC デバイスは、入力 2 が開いたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10104	CMC デバイスは、入力 2 が閉じたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10105	CMC デバイスは、入力 3 が開いたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10106	CMC デバイスは、入力 3 が閉じたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10107	CMC デバイスは、入力 4 が開いたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10108	CMC デバイスは、入力 4 が閉じたことを報告しています

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10111	CMC デバイスは、ロックセット 1 がロック解除されたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10112	CMC デバイスは、ロックセット 1 をロックできなかったことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10113	CMC デバイスは、ロックセット 1 のエラーを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10114	CMC デバイスは、ロックセット 1 がロックされたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10116	CMC デバイスは、ロックセット 2 がロック解除されたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10117	CMC デバイスは、ロックセット 2 をロックできなかったことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10118	CMC デバイスは、ロックセット 2 のエラーを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10119	CMC デバイスは、ロックセット 2 がロックされたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10134	CMC デバイスは、ロックセット 1 が正常であることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.10135	CMC デバイスは、ロックセット 2 が正常であることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20001	cpqRPMTrapUPSInputVoltageBelowMin
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20002	cpqRPMTrapUPSInputVoltageAboveMax
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20003	cpqRPMTrapUPSInputVoltageNormal
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20011	cpqRPMTrapUPSOutputVoltageBelowMin
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20012	cpqRPMTrapUPSOutputVoltageAboveMax
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20014	UPS デバイスは、過負荷状態を報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20015	UPS デバイスは、過負荷状態が解決したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20022	cpqRPMTrapUPSBatteryDepleted
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20023	cpqRPMTrapUPSBatteryLevelNormal
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20032	cpqRPMTrapUPSOnBypass
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20101	cpqRPMTrapUPSTemperatureLow
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20102	cpqRPMTrapUPSTemperatureHigh
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20103	UPS デバイスは、温度が正常であることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20111	UPS デバイスは、一般 UPS 障害を報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20112	UPS デバイスは、一般 UPS 障害が解決したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20121	UPS デバイスは、バッテリの障害を報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20122	UPS デバイスは、バッテリの障害が解決したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20131	UPS デバイスは、診断テストが失敗したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20132	UPS デバイスは、診断テストが成功したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20141	UPS 用入力 (商用電源): 測定された入力の周波数が、正常動作のための周波数範囲から外れています

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20142	UPS の測定された入力周波数は正常です
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20151	UPS デバイスはバッテリ電源で起動しました
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20152	UPS デバイスは商用電源で起動しました
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20161	UPS デバイスは、バイパス機能が利用できないことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20162	UPS デバイスは、バイパス機能利用不可エラーが解決したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20171	cpqRPMTrapUPSUtilityFail
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20172	cpqRPMTrapUPSUtilityFailCleared
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20181	cpqRPMTrapUPSUtilityNotPresent
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20182	cpqRPMTrapUPSUtilityNotPresentCleared
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20191	cpqRPMTrapUPSBypassManualTurnedOn
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20192	cpqRPMTrapUPSBypassManualTurnedOff
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20201	UPS デバイスは、入力配線の問題を報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.20202	UPS デバイスは、入力配線が正常であることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21007	UPS デバイスは、温度が範囲外であることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21008	UPS デバイスは、温度が正常であることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21011	UPS デバイスがシャットダウン間近状態を報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21012	UPS はシャットダウン間近状態ではなくなりました
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21013	UPS デバイスは、シャットダウン切迫状態を報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21014	UPS デバイスは、シャットダウン切迫状態が解決したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21019	UPS デバイスは、出力電圧が範囲外であることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21020	UPS デバイスは、出力電圧が正常であることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21021	UPS デバイスは、入力電圧が範囲外であることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21021	UPS デバイスは、入力電圧が範囲外であることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21023	UPS デバイスは、冗長性が失われたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21024	UPS デバイスは、冗長性が回復したことを報告しています
1.3.6.1.4.232.154.2.21029	UPS デバイスは、トリム状態を報告しています
1.3.6.1.4.232.154.2.21031	UPS デバイスは、ブースト状態を報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21033	UPS は、ユーザー操作により電源がオフになりました
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21034	UPS 出力が回復しました
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21035	UPS デバイスは、ファンの障害が発生したことを報告しています

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21036	UPS デバイスは、ファンの障害が解決したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21037	UPS デバイスは、緊急電源停止機能 (EPO) コマンドを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21041	UPS デバイスは、出力ブレーカーまたはリレーに障害が発生したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21042	UPS デバイスは、出力ブレーカーが正常に機能していることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21045	UPS デバイスは、カバー パネルが取り外されたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21046	UPS デバイスは、カバー パネルが取り付けられたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21047	UPS デバイスは、自動バイパス モードで動作していることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21048	UPS デバイスは、自動バイパス モードで動作していないことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21053	UPS デバイスは、UPS にバッテリが接続されていないことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21054	UPS デバイスは、UPS にバッテリが再接続されたことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21055	UPS デバイスは、バッテリ残量低下を報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21056	UPS デバイスは、バッテリ残量低下が解決したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21057	UPS デバイスは、バッテリが完全に放電したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21058	UPS デバイスは、バッテリが完全に放電したことを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21059	UPS デバイスは、手動バイパス モードで動作していることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21060	UPS デバイスは、通常モードで動作していることを報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21063	UPS デバイスは、バッテリ使用状態を報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.2.21064	UPS デバイスは、商用電源使用状態を報告しています
1.3.6.1.4.1.232.154.3.1	危険域アラームが発生しました
1.3.6.1.4.1.232.154.3.2	UPS に危険域アラームが発生しました
1.3.6.1.4.1.232.154.2.3	CRPM は、デバイス ホスト名の IP アドレスを見つけられませんでした
1.3.6.1.4.1.232.154.3.4	UPS のアラームが解決しました
1.3.6.1.4.1.232.154.2.50001	cpqRPMTestTrap
1.3.6.1.4.1.232.154.2.29999	cpqRPMTrapUPSDCStartOccurredCleared
1.3.6.1.4.1.232.154.2.29998	cpqRPMTrapUPSDCStartOccurred

このポリシーには、これらの各 SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラート メッセージが自動的に確認されます。

Intelligent Drive Array Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_FwdDriveArrayTraps_ja_JP

SI-HPProLiant_FwdDriveArrayTraps_ja_JP ポリシーは、Compaq の Intelligent Drive Array に関連する SNMP トラップをインターセプトします。また、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。

このポリシーが監視するトラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.3001	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが正常です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが回復中です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが READY for REBUILD (再構築可) です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが再構築中です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが WRONG DRIVE (間違ったドライブ) です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが BAD CONNECTION (接続不良) です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが過熱中です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスがシャットダウンです。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが NOT AVAILABLE (利用不可) です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが未構成です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが拡張中です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが QUEUED FOR EXPANSION (拡張キュー登録済み) です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.3002	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスがアクティブです。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが無効です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが非アクティブです。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが構築中です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3003	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスが PREDICTIVEFAILURE (障害予測) です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3004	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブがしきい値を超過しました。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3005	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが無効です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが有効です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリ ジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが TEMPORARILY DISABLED (一時的に無効) です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリ ジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが PERMANENTLY DISABLED (完全に無効) です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリ ジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが PERMANENTLY DISABLED (完全に無効) です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3006	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーターのバッテリ電源が失われました。データ損失の可能性があります。
1.3.6.1.4.1.232.0.3007	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード バッテリ ステータスが充電中です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード バッテリ ステータスが NOT PRESENT (なし) です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード バッテリ ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード バッテリ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード バッテリ ステータスが機能低下です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.3008	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが未構成です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが拡張中です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが QUEUED FOR EXPANSION (拡張キュー登録済み) です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスは正常です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが回復中です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが READY for REBUILD (再構築可) です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが再構築中です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが WRONG DRIVE (間違ったドライブ) です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが BAD CONNECTION (接続不良) です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが過熱中です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスがシャットダウンです。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが NOT AVAILABLE (利用不可) です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3009	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが無効です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが非アクティブです。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスがアクティブです。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが構築中です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.3010	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれ、SCSI バスは Varbind 4 に含まれます。
	SCSI バス上のインテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスが PREDICTIVEFAILURE (障害予測) です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれ、SCSI バス番号は Varbind 4 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3011	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブがしきい値を超過しました。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3012	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが無効です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが有効です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリ ジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが TEMPORARILY DISABLED (一時的に無効) です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリ ジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが PERMANENTLY DISABLED (完全に無効) です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3013	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーターのバッテリ電源が失われました。データ損失の可能性があります。
1.3.6.1.4.1.232.0.3014	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード バッテリ ステータスが充電中です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード バッテリ ステータスが NOT PRESENT (なし) です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード バッテリ ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード バッテリ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード バッテリ ステータスが機能低下です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3015	インテリジェント ドライブ アレイのコントローラー ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 4 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのコントローラー ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 4 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのコントローラーにケーブルの問題があります。ステータスは SNMP Varbind 4 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのコントローラーの電源がオフです。ステータスは SNMP Varbind 4 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3016	スロット内のコントローラーがアクティブになりました。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.3017	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが無効です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが非アクティブです。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスがアクティブです。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが構築中です。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3018	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスが PREDICTIVEFAILURE (障害予測) です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3019	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブがしきい値を超過しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.3020	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ ステータスは良好です。テープ ライブラリのステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ ステータスが障害です。テープ ライブラリのステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ ステータスが機能低下です。テープ ライブラリのステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ ステータスがオフラインです。テープ ライブラリのステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3021	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリのドア ステータスがオープンです。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリのドア ステータスがクローズです。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリ ジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ のド ア ステータスが NOT SUPPORTED (サポート外) です。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.3022	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスが機能低下です。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスがオフラインです。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスが MISSING WAS OK (現在なし、以前は良好) です。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスが MISSING WAS OFFLINE (現在なし、以前はオフライン) です。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3023	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブのクリーニングが必要です。
1.3.6.1.4.1.232.0.3024	クリーニング テープの交換が必要です。
1.3.6.1.4.1.232.0.3025	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが無効です。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが有効です。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリ ジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが TEMPORARILY DISABLED (一時的に無効) です。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリ ジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが PERMANENTLY DISABLED (完全に無効) です。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3026	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーターのバッテリ電源が失われました。データ損失の可能性があります。
1.3.6.1.4.1.232.0.3027	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター バッテリに障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.3028	インテリジェント ドライブ アレイのコントローラー ボード ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 4 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのコントローラー ボードに障害が発生しました。ステータスは SNMP Varbind 4 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのコントローラー ボードにケーブルの問題があります。ステータスは SNMP Varbind 4 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのコントローラー ボードが POWEREDOFF (電源オフ) です。ステータスは SNMP Varbind 4 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3029	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスが PREDICTIVEFAILURE (障害予測) です。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3030	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブがしきい値を超過しました。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.3031	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ ステータスが障害です。テープ ライブラリのステータスは SNMP Varbind 10 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ ステータスは良好です。テープ ライブラリのステータスは SNMP Varbind 10 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ ステータスが機能低下です。テープ ライブラリのステータスは SNMP Varbind 10 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ ステータスがオフラインです。テープ ライブラリのステータスは SNMP Varbind 10 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3032	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスがオフラインです。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスが機能低下です。ステータスは SNMP Varbind 7 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 10 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスが MISSING WAS OK (現在なし、以前は良好) です。ステータスは SNMP Varbind 10 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスが MISSING WAS OFFLINE (現在なし、以前はオフライン) です。ステータスは SNMP Varbind 10 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3033	インテリジェント ドライブ アレイのコントローラー ステータスが GENERAL FAILURE (一般障害) です。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのコントローラーにケーブルの問題があります。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのコントローラーの電源がオフです。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのコントローラーは良好です。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.3034	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが未構成です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが QUEUED FOR EXPANSION (拡張キュー登録済み) です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスは正常です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが回復中です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが READY for REBUILD (再構築可) です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが再構築中です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが WRONG DRIVE (間違ったドライブ) です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが BAD CONNECTION (接続不良) です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが過熱中です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスがシャットダウンです。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが拡張中です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの論理ドライブ ステータスが NOT AVAILABLE (利用不可) です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3035	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが無効です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが非アクティブです。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスがアクティブです。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのスペア ドライブ ステータスが構築中です。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.3036	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 12 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 12 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブ ステータスが PREDICTIVEFAILURE (障害予測) です。ステータスは SNMP Varbind 12 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3037	インテリジェント ドライブ アレイの物理ドライブがしきい値を超過しました。物理ドライブインデックスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3038	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが無効です。ステータスは SNMP Varbind 8 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが有効です。ステータスは SNMP Varbind 8 に含まれます。
	インテリ ジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが TEMPORARILY DISABLED (一時的に無効) です。ステータスは SNMP Varbind 8 に含まれます。
	インテリ ジェント ドライブ アレイのアクセラレーター ボード ステータスが PERMANENTLY DISABLED (完全に無効) です。ステータスは SNMP Varbind 8 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3039	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーターのバッテリ電源が失われました。データ損失の可能性があります。
1.3.6.1.4.1.232.0.3040	インテリジェント ドライブ アレイのアクセラレーター バッテリに障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.3041	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ ステータスは良好です。テープ ライブラリのステータスは SNMP Varbind 11 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ ステータスが機能低下です。テープ ライブラリのステータスは SNMP Varbind 11 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ ステータスが障害です。テープ ライブラリのステータスは SNMP Varbind 11 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ ステータスがオフラインです。テープ ライブラリのステータスは SNMP Varbind 11 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3042	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリのドア ステータスがオープンです。ステータスは SNMP Varbind 11 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリのドア ステータスがクローズです。ステータスは SNMP Varbind 11 に含まれます。
	インテリ ジェント ドライブ アレイのテープ ライブラリ のド ア ステータスが NOT SUPPORTED (サポート外) です。ステータスは SNMP Varbind 11 に含まれます。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.3043	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスが機能低下です。ステータスは SNMP Varbind 11 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 11 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 11 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスがオフラインです。ステータスは SNMP Varbind 11 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスが MISSING WAS OK (現在なし、以前は良好) です。ステータスは SNMP Varbind 11 に含まれます。
	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブ ステータスが MISSING WAS OFFLINE (現在なし、以前はオフライン) です。ステータスは SNMP Varbind 11 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3044	インテリジェント ドライブ アレイのテープ ドライブのクリーニングが必要です。
1.3.6.1.4.1.232.0.3045	クリーニング テープの交換が必要です。
1.3.6.1.4.1.232.0.3046	物理ドライブ ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 12 に含まれます。
	物理ドライブ ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 12 に含まれます。
	物理ドライブ ステータスが PREDICTIVEFAILURE (障害予測) です。ステータスは SNMP Varbind 12 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.3047	スペア ステータスが変更されました。

このポリシーには、これらの各 SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラート メッセージが自動的に確認されます。

Rack Information Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_CPQRackTraps_ja_JP

SI-HPProLiant_CPQRackTraps_ja_JP ポリシーは、温度、電力、ステータスの観点から、ラック情報に関連する SNMP トラップをインターセプトします。また、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。

このポリシーが監視するトラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.22002	ラック SNMP Varbind 3 のエンクロージャ名が SNMP Varbind 5 に変更されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22003	エンクロージャ SNMP Varbind 5 がラック SNMP Varbind 3 から取り外されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22004	エンクロージャ SNMP Varbind 5 がラック SNMP Varbind 3 に取り付けられました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22005	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の温度センサーが障害に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22006	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の温度センサーが機能低下に設定されました。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.22007	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の温度センサーが良好に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22008	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 のファンが障害に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22009	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 のファンが機能低下に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22010	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 のファンが良好に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22011	エンクロージャ SNMP Varbind 5 のファンがラック SNMP Varbind 3 から取り外されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22012	エンクロージャ SNMP Varbind 5 のファンがラック SNMP Varbind 3 に取り付けられました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22013	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の電源 SNMP Varbind 7 が障害に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22014	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の電源 SNMP Varbind 7 が機能低下に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22015	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の電源 SNMP Varbind 7 が良好に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22016	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 から、電源 SNMP Varbind 7 が取り外されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22017	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 に、電源 SNMP Varbind 7 が取り付けられました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22018	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の電源サブシステムが冗長ではなくなりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22019	ラックの電源が、ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の電源 SNMP Varbind 6 で入力電圧の問題を検出しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22020	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の電源サブシステムが過負荷状態にあります。
1.3.6.1.4.1.232.0.22021	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 のブレード SNMP Varbind 6 で電力不足が発生したため、サーバーがシャットダウンしました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22022	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 のブレード SNMP Varbind 6 で、冗長性が維持されないままサーバーの電源がオンになっています。
1.3.6.1.4.1.232.0.22023	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 のブレード SNMP Varbind 6 の電源をオンにするのに十分な電力がありません。
1.3.6.1.4.1.232.0.22024	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 のブレード SNMP Varbind 6 の電源をオンにするのに十分な電力がありません。
1.3.6.1.4.1.232.0.22025	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 のブレード SNMP Varbind 6 の電源をオンにするのに十分な電力がありません。
1.3.6.1.4.1.232.0.22026	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 のブレード SNMP Varbind 6 のマニュアル オーバーライドで、サーバーの電源がオンになりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22027	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 のブレード SNMP Varbind 6 のヒューズが切断しています。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.22028	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の場所 SNMP Varbind 7 から、サーバー ブレード SNMP Varbind 6 が取り外されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22029	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の場所 SNMP Varbind 7 に、サーバー ブレード SNMP Varbind 6 が取り付けられました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22030	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の電源サブシステムの負荷が不均衡です。
1.3.6.1.4.1.232.0.22031	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の電源サブシステムの直流電源に問題があります。
1.3.6.1.4.1.232.0.22033	ラック SNMP Varbind 3 で、不明な電力消費があります。
1.3.6.1.4.1.232.0.22032	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の電源サブシステムの交流入力電力が上限を超えました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22034	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の電源サブシステムの負荷分散用ワイヤーが存在しません。
1.3.6.1.4.1.232.0.22035	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の電源サブシステムに取り付けられた電源エンクロージャが多すぎます。
1.3.6.1.4.1.232.0.22036	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の電源サブシステムが、適切に構成されていません。
1.3.6.1.4.1.232.0.22037	オンボード アドミニストレーターのステータスが機能低下に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22038	オンボード アドミニストレーターのステータスが良好に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22039	オンボード アドミニストレーターが取り外されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22042	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5、場所 SNMP Varbind 7 にあるブレード Blade SNMP Varbind 6 で、サーバー ブレード E-Keying に障害が発生し、サーバー メザニン カードとインターコネクト間でポート マッピングの問題があります。
1.3.6.1.4.1.232.0.22040	オンボード アドミニストレーターが取り付けられました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22041	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 で、オンボード アドミニストレーターがプライマリ ロールを取得しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22043	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の場所 SNMP Varbind 7、サーバー ブレード SNMP Varbind 6 で、サーバー ブレード E-Keying が正常動作に戻りました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22044	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の場所 SNMP Varbind 7 のインターコネクト SNMP Varbind 6 で、エンクロージャからインターコネクトが取り外されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22045	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の場所 SNMP Varbind 7 のインターコネクト SNMP Varbind 6 で、エンクロージャにインターコネクトが取り付けられました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22046	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の場所 SNMP Varbind 7 のインターコネクト SNMP Varbind 6 で、インターコネクト ステータスが障害に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22047	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の場所 SNMP Varbind 7 のインターコネクト SNMP Varbind 6 で、インターコネクト ステータスが機能低下に設定されました。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.22048	ラック SNMP Varbind 3 に設置されたエンクロージャ SNMP Varbind 5 の場所 SNMP Varbind 7 のインターコネクト SNMP Varbind 6 で、インターコネクト ステータスが良好に設定されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.22049	サーバー ブレードが電力の低下を要求しました
1.3.6.1.4.1.232.0.22050	エンクロージャからサーバー ブレードが取り外されました
1.3.6.1.4.1.232.0.22051	エンクロージャにサーバー ブレードが取り付けられました
1.3.6.1.4.1.232.0.22052	cpqRackServerBladeStatusRepaired
1.3.6.1.4.1.232.0.22053	cpqRackServerBladeStatusDegraded
1.3.6.1.4.1.232.0.22054	cpqRackServerBladeStatusCritical
1.3.6.1.4.1.232.0.22055	cpqRackServerBladeGrpCapTimeout
1.3.6.1.4.1.232.0.22056	cpqRackServerBladeUnexpectedShutdown
1.3.6.1.4.1.232.0.22057	cpqRackServerBladeMangementControllerFirmwareUpdating
1.3.6.1.4.1.232.0.22058	cpqRackServerBladeMangementControllerFirmwareUpdateComplete
1.3.6.1.4.1.232.0.22059	cpqRackServerBladeSystemBIOSFirmwareUpdating
1.3.6.1.4.1.232.0.22060	cpqRackServerBladeSystemBIOSFirmwareUpdateCompleted
1.3.6.1.4.1.232.0.22061	cpqRackServerBladeFrontIOBlankingActive
1.3.6.1.4.1.232.0.22062	cpqRackServerBladeRemoteFrontIOBlankingInactive
1.3.6.1.4.1.232.0.22063	cpqRackServerBladeDiagnosticAdaptorInserted
1.3.6.1.4.1.232.0.22064	cpqRackServerBladeDiagnosticAdaptorRemoved
	cpqRackServerBladeDiagnosticAdaptorRemoved
1.3.6.1.4.1.232.0.22065	cpqRackServerBladeEnteredPXEBootMode
1.3.6.1.4.1.232.0.22066	cpqRackServerBladeExitedPXEBootMode
1.3.6.1.4.1.232.0.22067	cpqRackServerBladeWarmReset
1.3.6.1.4.1.232.0.22068	cpqRackServerBladePOSTCompleted
1.3.6.1.4.1.232.0.22069	cpqRackServerBladePoweredOn
1.3.6.1.4.1.232.0.22070	cpqRackServerBladePoweredOff
1.3.6.1.4.1.232.0.22071	cpqRackInformationalEAETrap
1.3.6.1.4.1.232.0.22072	cpqRackMinorEAETrap
1.3.6.1.4.1.232.0.22073	cpqRackMajorEAETrap
1.3.6.1.4.1.232.0.22074	cpqRackCriticalEAETrap
1.3.6.1.4.1.232.0.22075	cpqRackPowerMinorEAETrap
1.3.6.1.4.1.232.0.22076	cpqRackPowerMajorEAETrap
1.3.6.1.4.1.232.0.22077	cpqRackPowerCriticalEAETrap

このポリシーには、これらの各 SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラート メッセージが自動的に確認されます。

UPS Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_CPQUPSTraps_ja_JP

SI-HPProLiant_CPQUPSTraps_ja_JP ポリシーは、ステータス、バッテリ、無停電電源装置 (UPS) によって開始された動作の観点から、UPS に関連する SNMP トラップをインターセプトします。また、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。

このポリシーが監視するトラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.12001	UPS は AC 電源に障害が発生したことを報告します。
1.3.6.1.4.1.232.0.12002	UPS は AC 電源が回復したことを報告します。
1.3.6.1.4.1.232.0.12003	UPS はサーバーのシャットダウンを開始しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.12004	サーバーは、UPS によるシャットダウンから回復しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.12005	UPS バッテリの残量低下により、サーバーへの供給電力が間もなく失われます。
1.3.6.1.4.1.232.0.12006	UPS は AC 電源に障害が発生したことを報告します。
1.3.6.1.4.1.232.0.12007	UPS は AC 電源が回復したことを報告します。
1.3.6.1.4.1.232.0.12008	UPS はサーバーのシャットダウンを開始しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.12009	サーバーは、UPS によるシャットダウンから回復しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.12010	UPS バッテリの残量低下により、サーバーへの供給電力が間もなく失われます。
1.3.6.1.4.1.232.0.12011	UPS は過負荷状態になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.12012	UPS バッテリに障害の兆候があります。
1.3.6.1.4.1.232.0.12013	cpqUpsGenericCritical
1.3.6.1.4.1.232.0.12014	cpqUpsGenericInfo

このポリシーには、これらの各 SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラート メッセージが自動的に確認されます。

Blade Type 2 Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_BladeType2Traps_ja_JP

SI-HPProLiant_BladeType2Traps_ja_JP ポリシーは、Blade Type 2 に関連する SNMP トラップをインターセプトします。また、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。

このポリシーが監視するトラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.1	bt2SwPrimaryPowerSupplyFailure
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.35	bt2SwUfdfoLtMUP
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.32	bt2SwFanFailure

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.48	bt2SwHotlinksBackupUp
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.46	bt2SwHotlinksMasterUp
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.17	bt2SwVrrpNewBackup
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.36	bt2SwUfdfoGlobalEna
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.28	bt2SwSaveComplete
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.37	bt2SwUfdfoGlobalDis
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.2	bt2SwDefGwUp
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.47	bt2SwHotlinksMasterDn
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.38	bt2SwUfdfoLtDAutoEna
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.5	bt2SwDefGwNotInService
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.41	bt2SwCubeRemoved
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.49	bt2SwHotlinksBackupDn
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.27	bt2SwApplyComplete
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.45	bt2SwCistTopologyChanged
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.16	bt2SwVrrpNewMaster
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.40	bt2SwCubeInserted
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.29	bt2SwFwDownloadSucess
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.18	bt2SwVrrpAuthFailure
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.34	bt2SwUfdfoLtMFailure
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.44	bt2SwStgTopologyChanged
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.3	bt2SwDefGwDown
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.4	bt2SwDefGwInService
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.42	bt2SwStgNewRoot
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.50	bt2SwHotlinksNone
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.22	bt2SwTempExceedThreshold
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.31	bt2SwTempReturnThreshold
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.39	bt2SwUfdfoLtDAutoDis
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.30	bt2SwFwDownloadFailure
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.33	bt2SwFanFailureFixed
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.43	bt2SwCistNewRoot
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.26	bt2SwRackLocationChange
1.3.6.1.4.1.11.2.3.7.11.33.1.2.7.19	bt2SwLoginFailure

このポリシーには、これらの各 SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラート メッセージが自動的に確認されます。

Storage Systems Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_CPQSSTraps_ja_JP

SI-HPProLiant_CPQSSTraps_ja_JP ポリシーは、ファンのステータス、温度、電源の観点から、ストレージ システムに関連する SNMP トラップをインターセプトします。また、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。

このポリシーが監視するトラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.8001	ストレージ システム ファン ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	このユニットではファンの監視はサポートされません。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.8002	ストレージ システムは温度の障害によりシャットダウンします。
1.3.6.1.4.1.232.0.8003	ストレージ システム温度が機能低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.8004	ストレージ システム温度は良好です。
1.3.6.1.4.1.232.0.8005	ストレージ システムのサイド パネルがユニットに元通り取り付けられました。
1.3.6.1.4.1.232.0.8006	ストレージ システムのサイド パネルがユニットから取り外されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.8007	ストレージ システムの電源ユニットが機能低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.8008	ストレージ システム ファン ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスがファンなしに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 3 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.8009	ストレージ システム温度で障害が発生しました。
1.3.6.1.4.1.232.0.8010	ストレージ システム温度が機能低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.8011	ストレージ システム温度は良好です。
1.3.6.1.4.1.232.0.8012	ストレージ システムのサイド パネルがユニットに元通り取り付けられました。
1.3.6.1.4.1.232.0.8013	ストレージ システムのサイド パネルがユニットから取り外されました。
1.3.6.1.4.1.232.0.8014	ストレージ システムの電源ユニットが機能低下になりました。
1.3.6.1.4.1.232.0.8015	ストレージ システムの電源ユニットが機能低下になりました。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.8016	ストレージ システム ファン ステータスがなしに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.8017	ストレージ システムの電源ステータスがなしに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.8018	ストレージ システムの電源 UPS ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システムの電源 UPS ステータスが UPS なしに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システムの電源 UPS ステータスが電源障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システムの電源 UPS ステータスがバッテリ残量低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.8019	ストレージ システムの温度センサー ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システムの温度センサー ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システムの温度センサー ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.8020	ストレージ システム ファン ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスがなしに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.8021	ストレージ システムの電源ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスがなしに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 6 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.8022	ストレージ システム ファン ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスがサポート対象外に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが degraded-Fan1Failed (機能低下-ファン 1 障害) に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが degraded-Fan2Failed (機能低下-ファン 2 障害) に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.8023	ストレージ システムの温度ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの温度ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの温度ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの温度ステータスが温度なしに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの温度ステータスがサポート外に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.8024	ストレージ システムの電源ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスが noFltTolPower (耐障害電源なし) に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスがサポート外に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスが noFltTolPower-Bay1Missing (耐障害電源なし - ベイ 1 なし) に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスが noFltTolPower-Bay2Missing (耐障害電源なし - ベイ 2 なし) に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.8.0.1	ストレージ システム ファン ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 1 に含まれます。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.8025	ストレージ システム回復サーバー オプション ステータスが DEAMON DOWN DISABLED (デーモン ダウン無効) に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	ストレージ システム回復サーバー オプション ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	ストレージ システム回復サーバー オプション ステータスが DEAMON DOWN ACTIVE (デーモン ダウン アクティブ) に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	ストレージ システム回復サーバー オプション ステータスがセカンダリなしに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	ストレージ システム回復サーバー オプション ステータスが DEAMON DOWN NOSECONDARY (デーモン ダウン セカンダリなし) に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	ストレージ システム回復サーバー オプション ステータスがリンクダウンに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	ストレージ システム回復サーバー オプション ステータスが DEAMON DOWN LINKDOWN (デーモン ダウン リンクダウン) に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	ストレージ システム回復サーバー オプション ステータスが SECONDARY RUNNING AUTO (セカンダリ実行中、自動制御) に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	ストレージ システム回復サーバー オプション ステータスが SECONDARY RUNNING USER (セカンダリ実行中、ユーザー制御) に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	ストレージ システム回復サーバー オプション ステータスが構成なしに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	ストレージ システム回復サーバー オプション ステータスがサポート外に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	ストレージ システム回復サーバー オプション ステータスが無効に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
	ストレージ システム回復サーバー オプション ステータスが evTimeOutError (環境変数タイムアウトエラー) に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 5 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.8026	ストレージ システム ファン ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスがファンなしに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.232.0.8027	ストレージ システムの温度ステータスが機能低下です。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの温度ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの温度ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの温度ステータスが温度なしに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.8028	ストレージ システムの電源ユニット ステータスが機能低下です。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ユニット ステータスが障害です。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ユニット ステータスは良好です。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ユニット ステータスが noFltTolPower (耐障害電源なし) です。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.8029	ストレージ システム ファン ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システム ファン ステータスがファンなしに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.8030	ストレージ システムの温度ステータスが良好に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの温度ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの温度ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの温度ステータスが温度なしに変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
1.3.6.1.4.1.232.0.8031	ストレージ システムの電源ステータスが機能低下に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスが障害に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。
	ストレージ システムの電源ステータスが noFltTolPower (耐障害電源なし) に変更されました。ステータスは SNMP Varbind 9 に含まれます。

このポリシーには、これらの各 SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラート メッセージが自動的に確認されます。

Virtual Connect Module Traps Monitor ポリシー

SI-HPProLiant_VCModuleTraps_ja_JP

SI-HPProLiant_VCModuleTraps_ja_JP ポリシーは、仮想接続モジュールに関連する SNMP トラップをインターセプトします。また、トラップが生成されるたびに HPOM コンソールにアラートを送信します。

このポリシーが監視するトラップは以下のとおりです。

MIB ID	SNMP トラップの説明
1.3.6.1.4.1.11.5.7.5.2.3.2.11	vcModPortInputUtilizationUp

このポリシーには、この SNMP トラップのルールが含まれています。問題が解決されると、前のアラートメッセージが自動的に確認されます。

SIM Agent Process Monitoring ポリシー

SI-SIMAgentProcessMonitor_ja_JP

SI-SIMAgentProcessMonitor_ja_JP ポリシーは Measurement Threshold ポリシーで、IM エージェントがインストールされているかどうかをチェックします。このポリシーは 5 分ごとに実行され、IM エージェントがアンインストールされているか、ダウンしている場合にメッセージを HPOM コンソールに送信します。

容量ポリシー

容量監視は、要求に合ったサービス レベルとコストでパフォーマンスを提供するのに役立ちます。容量監視を行うことで、IT インフラストラクチャの容量が進化するビジネス ニーズに対応できるようになります。また、使用率が低いリソースや高いリソースを特定するのにも役立ちます。一定の期間にわたってこれらの要素を監視することは、IT リソースの使用率に対する影響を理解する上で役に立ちます。システム リソースの現在のパフォーマンスと履歴データを分析することによって、将来的なニーズを正確に予測することができます。これらのポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Capacity]

Disk Capacity Monitor ポリシー

SI-DiskCapacityMonitor_ja_JP

このポリシーは、管理ノード上のディスクの容量パラメータを監視します。このポリシーは、使用率や使用可能な空き容量をディスクごとにチェックします。また、Linux については、Linux ノードの inode 使用率もチェックします。空き容量、使用率、inode 使用率が特定のしきい値を超えると、ポリシーは HPOM コンソールにアラートを送信します。

使用するメトリック	• FS_MAX_SIZE • FS_SPACE_USED • FS_SPACE_UTIL • FS_DIRNAME • FS_INODE_UTIL (Windows では使用できません)
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris
スクリプト パラメータ	説明
SpaceUtilCriticalThreshold	このしきい値には、ディスクの使用済み容量を指定します。危険域メッセージを受信する基準となるしきい値を設定します。
SpaceUtilMajorThreshold	重要危険域メッセージを受信する基準となるしきい値を設定します。
SpaceUtilMinorThreshold	警戒域メッセージを受信する基準となるしきい値を設定します。
SpaceUtilWarningThreshold	注意域メッセージを受信する基準となるしきい値を設定します。
InodeUtilCriticalThreshold	このしきい値は、Linux システムでの inode 使用率をパーセンテージ (0 ～ 100%) で指定します。危険域メッセージを受信する基準となるしきい値を設定します。
InodeUtilMajorThreshold	ノードの使用済み容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要警戒域メッセージが受信されます。
InodeUtilMinorThreshold	警戒域メッセージを受信する基準となるしきい値を設定します。
InodeUtilWarningThreshold	注意域メッセージを受信する基準となるしきい値を設定します。
FreeSpaceCriticalThreshold	このしきい値には、ディスク/ファイル システムで使用可能な空き容量 (MB 単位) を指定します。ディスクの空き容量の最小値にしきい値を設定します。しきい値を下回ると、危険域メッセージが受信されます。
FreeSpaceMajorThreshold	ディスクの空き容量の最小値にしきい値を設定します。しきい値を下回ると、重要警戒域メッセージが受信されます。
FreeSpaceMinorThreshold	ディスクの空き容量の最小値にしきい値を設定します。しきい値を下回ると、警戒域メッセージが受信されます。

FreeSpaceWarningThreshold	ディスクの空き容量の最小値にしきい値を設定します。しきい値を下回ると、注意域メッセージが受信されます。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。

管理ノード上のドライブ/ファイル システムに複数のしきい値を設定することができます。しきい値を複数設定する場合には、ポリシー パラメータをカンマで区切ります。次に、いくつかの例を示します。

- **`FreeSpaceMinorThreshold 45`**

管理ノード上にあるすべてのディスク/ファイル システムについて、45 MB をしきい値として設定します。ディスク/ファイル システムの空き容量がこのしきい値を下回ると、ポリシーは重要度が警戒域のメッセージを送信します。

- **`SpaceUtilCriticalThreshold /=65,95,c:=65`**

管理ノード上で、'/' ドライブと 'C:' ドライブには 65%、その他のドライブ/ファイル システムには 95% をしきい値として設定しています。ディスク/ファイル システムの使用率がこのしきい値を超えると、ポリシーは重要度が危険域のメッセージを送信します。

- **`InodeUtilCriticalThreshold /opt=85,/=88`**

'/opt' ドライブには 85%、'/' ドライブには 88% をしきい値として設定しています。inode 使用率がこのしきい値を超えると、ポリシーは重要度が危険域のメッセージを送信します。管理ノード上にある上記以外のドライブ/ファイル システムには、このポリシーは適用されません。

- **`FreeSpaceMajorThreshold E:=200,256,F:=512,c:=1024,/=1024`**

管理ノード上で、'E:' ドライブには 200、'F:' ドライブには 512、'C:' ドライブには 1024、'/' ドライブには 1024、その他ドライブには 256 をしきい値として設定します。空き容量がこのしきい値を下回ると、ポリシーは重要警戒域メッセージを送信します。

- **`InodeUtilCriticalThreshold <null>`**

  `InodeUtilMajorThreshold <null>`

  `InodeUtilMinorThreshold <null>`

  `InodeUtilWarningThreshold <null>`

この例では、ドライブ/ファイル システムにしきい値が設定されていません。このポリシーは、管理ノード上にあるすべてのドライブ/ファイル システムについて、inode 使用率を監視しません。

Swap Capacity Monitor ポリシー

SI-SwapCapacityMonitor_ja_JP

このポリシーは、システム上のスワップ領域の使用率を監視します。

使用するメトリック	• GBL_SWAP_SPACE_AVAIL • GBL_SWAP_SPACE_UTIL • GBL_SWAP_SPACE_USED
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris
スクリプト パラメータ	説明
SwapSpaceUtilCriticalThreshold	このしきい値は、ノード上のスワップ領域の使用率をパーセンテージ (0 ～ 100%) で指定します。ディスク上にある空きスワップ領域の最小値にしきい値を設定します。しきい値を下回ると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
SwapSpaceUtilMajorThreshold	ノード上の使用済みスワップ領域の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
SwapSpaceUtilMinorThreshold	ノード上の使用済み容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
SwapSpaceUtilWarningThreshold	ノード上の使用済み容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
FreeSwapSpaceAvailCriticalThreshold	このしきい値には、ディスク/ファイル システムで使用可能な空きスワップ領域 (MB 単位) を指定します。ディスク上にある空き領域の最小値にしきい値を設定します。しきい値を下回ると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
FreeSwapSpaceAvailMajorThreshold	ディスク上にある空きスワップ領域の最小値にしきい値を設定します。しきい値を下回ると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
FreeSwapSpaceAvailMinorThreshold	ディスク上にある空きスワップ領域の最小値にしきい値を設定します。しきい値を下回ると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
FreeSwapSpaceAvailWarningThreshold	ディスク上にある空きスワップ領域の最小値にしきい値を設定します。しきい値を下回ると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。

Memory Utilization Monitor ポリシー

SI-MemoryUtilization-AT_ja_JP

このポリシーは、オペレーティング システムによる全体的なメモリ使用率を監視します。自動しきい値決定により、前日のメモリ使用率に基づいてしきい値が自動計算されます。

このポリシーは履歴データに依存します。正確な値を計算するためには、Performance Agent で 1 週間分のデータを収集してからポリシーを配布してください。

使用するメトリック	GBL_MEM_UTIL
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	ポリシーが管理コンソールに送信するメッセージを簡単に識別できるような値を指定してください。
DataSource	HP Embedded Performance Component (EPC) データ ソース名を CODA として表示します。
DataObject	HP Embedded Performance Component (EPC) データ オブジェクト名を Global として表示します。
DataMetric	HP Embedded Performance Component (EPC) メトリック名を GBL_MEM_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例 : 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックが示すメモリ消費量の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックが示すメモリ消費量の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	このパラメータの値は変更しないでください。
MemUtilCutOff	メモリ使用率の監視を停止する基準となる値を設定します。
DebugLevel	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。

Swap Utilization Monitor ポリシー

SI-SwapUtilization-AT_ja_JP

このポリシーは、管理ノードでシステムが使用する全体的なスワップ領域の使用率を監視します。自動しきい値決定により、前日のスワップ領域の使用率に基づいてしきい値が自動計算されます。

このポリシーは履歴データに依存します。正確な値を計算するためには、Performance Agent で 1 週間分のデータを収集してからポリシーを配布してください。

使用するメトリック	GBL_SWAP_SPACE_USED
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	ポリシーが管理コンソールに送信するメッセージを簡単に識別できるような値を指定してください。
DataSource	HP Embedded Performance Component (EPC) データ ソース名を CODA として表示します。
DataObject	HP Embedded Performance Component (EPC) データ オブジェクト名を Global として表示します。
DataMetric	HP Embedded Performance Component (EPC) メトリック名を GBL_SWAP_SPACE_USED として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックが示すスワップ領域使用量の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックが示すスワップ領域使用量の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	このパラメータの値は変更しないでください。
DebugLevel	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
SwapUtilCutOff	スワップ使用率の監視を停止する基準となる値を設定します。

Per CPU Utilization Monitor ポリシー

SI-PerCPUUtilization-AT_ja_JP

このポリシーは、管理ノードに搭載されている各 CPU の使用率を監視します。このポリシーは、各収集間隔について、CPU インスタンスを個別に処理します。自動しきい値決定により、前日の CPU 使用率に基づいてしきい値が自動計算されます。

このポリシーは履歴データに依存します。正確な値を計算するためには、Performance Agent で 1 週間分のデータを収集してからポリシーを配布してください。

使用するメトリック	BYCPU_CPU_TOTAL_UTIL
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	ポリシーが管理コンソールに送信するメッセージを簡単に識別できるような値を指定してください。
DataSource	HP Embedded Performance Component (EPC) データ ソース名を CODA として表示します。
DataObject	HP Embedded Performance Component (EPC) データ オブジェクト名を Global として表示します。
DataMetric	HP Embedded Performance Component (EPC) メトリック名を BYCPU_CPU_TOTAL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックが示す CPU 消費率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックが示す CPU 消費率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	このパラメータの値は変更しないでください。
DebugLevel	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
CPUUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。

Remote Drive Space Utilization Monitor ポリシー

SI-MSWindowsRemoteDriveSpaceUtilization_ja_JP

SI-MSWindowsRemoteDriveSpaceUtilization_ja_JP ポリシーは、Microsoft Windows プラットフォーム上にあるリモート ドライブの容量の使用率レベルを監視します。このポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Capacity] → [Windows]

ソース タイプ	WMI
サポートされているプラットフォーム	Microsoft Windows
スクリプト パラメータ	説明
SpaceUtilCriticalThreshold	このしきい値には、監視対象のリモート ドライブの容量の使用率をパーセンテージ (0 ～ 100%) で指定します。ドライブ上にある空き領域の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
SpaceUtilMajorThreshold	ドライブ上にある空き領域の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
SpaceUtilMinorThreshold	ドライブ上にある空き領域の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
SpaceUtilWarningThreshold	ドライブ上にある空き領域の最小値にしきい値を設定します設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。
AssignMessageToRemoteHost	アラート メッセージの送信元をリモート ホストとして表示するには、この値を 1 に設定します。デフォルトでは、メッセージはメッセージの送信元の管理ノードに割り当てられます。

NFS ファイル システム用の Remote Drive Space Utilization Monitor ポリシー

SI-LinuxNfsUtilizationMonitor_ja_JP

SI-LinuxNfsUtilizationMonitor_ja_JP ポリシーは、Linux プラットフォーム上にある NFS リモート ファイル システムの容量の使用率レベルを監視します。このポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Capacity] → [Linux]

サポートされているプラットフォーム	• Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server
スクリプト パラメータ	説明
SpaceUtilCriticalThreshold	このしきい値には、監視対象のリモート ファイルシステムの容量の使用率をパーセンテージ (0 ～ 100%) で指定します。ファイルシステム上にある空き領域の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。

SpaceUtilMajorThreshold	ファイルシステム上にある空き領域の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
SpaceUtilMinorThreshold	ファイルシステム上にある空き領域の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
SpaceUtilWarningThreshold	ファイルシステム上にある空き領域の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
NfsFileSystemType	容量の使用率を監視する対象となるファイルシステムのタイプを指定します。たとえば、NFS と指定すると、すべての NFS リモート ファイルシステムが容量使用率監視の対象になります。
AssignMessageToRemoteHost	アラート メッセージの送信元をリモート ホストとして表示するには、この値を 1 に設定します。デフォルトでは、メッセージはメッセージの送信元の管理ノードに割り当てられます。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。

CIFS ファイル システム用の Remote Drive Space Utilization Monitor ポリシー

SI-LinuxCifsUtilizationMonitor_ja_JP

SI-LinuxCifsUtilizationMonitor_ja_JP ポリシーは、Linux プラットフォーム上にある CIFS リモート ファイルシステムの容量の使用率レベルを監視します。このポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Capacity] → [Linux]

サポートされているプラットフォーム	• Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server
スクリプト パラメータ	説明
SpaceUtilCriticalThreshold	このしきい値には、監視対象のリモート ファイルシステムの容量の使用率をパーセンテージ (0 ～ 100%) で指定します。ファイルシステム上にある空き領域の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
SpaceUtilMajorThreshold	ファイルシステム上にある空き領域の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
SpaceUtilMinorThreshold	ファイルシステム上にある空き領域の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。

SpaceUtilWarningThreshold	ファイルシステム上にある空き領域の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
CifsFileSystemType	容量の使用率を監視する対象となるファイルシステムのタイプを指定します。たとえば、CIFS と指定すると、すべての CIFS リモート ファイルシステムが容量使用率監視の対象になります。このポリシーで監視できるファイルシステムのタイプは、cifs と smb です。
AssignMessageToRemoteHost	アラート メッセージの送信元をリモート ホストとして表示するには、この値を 1 に設定します。デフォルトでは、メッセージはメッセージの送信元の管理ノードに割り当てられます。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。

Paged and Nonpaged Pool Utilization ポリシー

SI-MSWindowsPagedPoolUtilization_ja_JP と **SI-MSWindowsNonPagedPoolUtilization_ja_JP**

SI-MSWindowsPagedPoolUtilization_ja_JP ポリシーは、レジストリ データがページング ファイルに書き込まれるときのメモリを監視します。SI-MSWindowsNonPagedPoolUtilization_ja_JP ポリシーは、システムがページ フォルトを処理できないときにデータを格納するメモリを監視します。このポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Capacity] → [Windows]

使用するメトリック	• GBL_MEM_PAGED_POOL_BYTES • GBL_MEM_NONPAGED_POOL_BYTES
サポートされているプラットフォーム	Microsoft Windows
スクリプト パラメータ	説明
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 900 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 900 秒が現在のベースライン期間になります。

WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 4.5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5.5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 7.5 に設定します。

ログ監視ポリシー

Systems Infrastructure SPI では、管理ノードの重要なログを監視するために、ログファイル ポリシーが用意されています。これらのポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Logs]

Linux システム サービス ログファイル ポリシー

Linux システム サービス ログファイル ポリシーは、Red Hat および Suse Enterprise Linux エディションの重要なシステム サービス ログを監視します。これらのポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Logs] → [Linux]

Boot Log ポリシー

SI-LinuxBootLog_ja_JP

このポリシーは、ブート ログファイル `/var/log/boot.log` と、システム ブート エラー発生時のアラートを監視します。デフォルトのポーリング間隔は 5 分です。

このポリシーは、以下の条件をチェックします。

条件	説明
サービスの起動に失敗	ブート ログ ファイルに [<*> <@.service>: <@.daemon> の起動に失敗] のパターンと一致するエラー条件があるかどうかをチェックします。一致が見つかった場合、適切なメッセージ属性と共に重要度が警戒域のメッセージが HPOM コンソールに送信されます。
サービスの失敗	ログ ファイルに、[<*> <@.service>: <*.msg> に失敗] のパターンと一致するエラー条件があるかどうかをチェックします。一致が見つかった場合、適切なメッセージ属性と共に重要度が危険域のメッセージが HPOM コンソールに送信されます。

Secure Log ポリシー

SI-LinuxSecureLog_ja_JP

このポリシーは、/var/log/secure および /var/log/messages 内のログ ファイルと、セキュリティで保護されたログインでのエラー発生時のアラートを監視します。デフォルトのポーリング間隔は 5 分です。

このポリシーは、以下の条件をチェックします。

条件	説明
認証の失敗	セキュリティで保護されたログインのログ ファイルに、[<*> sshd\[<#>\]: <*.host> ポート <#> ssh2 からの <@.user> のパスワードが失敗] のパターンと一致するエラー条件があるかどうかをチェックします。一致が見つかった場合、適切なメッセージ属性と共に重要度が警戒域のメッセージが HPOM コンソールに送信されます。

Kernel Log ポリシー

SI-LinuxKernelLog_ja_JP

このポリシーは、カーネル ログ ファイル /var/log/messages と、カーネル サービスでのエラー発生時のアラートを監視します。デフォルトのポーリング間隔は 5 分です。

このポリシーは、以下の条件をチェックします。

条件	説明
カーネル サービスの失敗	カーネル ログ ファイルに、[<*> kernel: <@.service>: <*.msg> が失敗] のパターンと一致するエラー条件があるかどうかチェックします。一致が見つかった場合、適切なメッセージ属性と共に重要度が警戒域のメッセージが HPOM コンソールに送信されます。

Windows システム サービス ログファイル ポリシー

Windows Server logfile ポリシーは、Microsoft Windows 2008 以降のバージョンで使用される重要なシステム サービス ログを監視します。これらのポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Logs] → [MS Windows Server]

NFS Log ポリシー

SI-MSWindowsServer_NFSWarnError_ja_JP

このポリシーは、NFS サーバー プロセスの NFS ログ ファイルを監視し、エラーのログ エントリを、注意域またはエラーの重要度レベルで HPOM コンソールに転送します。デフォルトのポーリング間隔は 1 分です。このポリシーは、NTF ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- 空き領域が不足しているため、NFS サーバーは、監査の記録を停止しました
- 監査ログが最大ファイル サイズに達しました
- NFS サーバーは、RPC ポート マッパーに登録できませんでした
- サーバーはフェーズ 2 の初期化中に NFS ドライバからエラーを受信しました

DNS Log ポリシー

SI-MSWindowsServer_DNSWarnError_ja_JP

このポリシーは、Microsoft DNS サーバー サービスと関連プロセスのログ ファイルを監視し、エラーのログ エントリを、注意域またはエラーの重要度レベルで HPOM コンソールに転送します。デフォルトのポーリング間隔は 1 分です。このポリシーは、DNS ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- DNS サーバーは、リソース レコード用にメモリを割り当てることができませんでした
- DNS サーバーは、利用可能なメモリが不足していたためクライアント要求を処理できませんでした
- DNS サーバーは、ゾーン転送スレッドを作成できませんでした
- DNS サーバーにファイル書き込みエラーが発生しました
- DNS サーバーは、リモート プロシージャ コール (RPC) サービスを初期化できませんでした

Windows Logon ポリシー

SI-MSWindowsServer_WindowsLogonWarnError_ja_JP

このポリシーは、Windows ログオンおよび初期化のイベント ログを監視し、エラーのログ エントリを、注意域またはエラーの重要度レベルで HPOM コンソールに転送します。デフォルトのポーリング間隔は 1 分です。このポリシーは、Windows ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- Windows のライセンスが無効です
- Windows のライセンス認証の手続きが失敗しました
- Windows のログオン プロセスによって、デスクトップを切り替えることができませんでした
- Windows のログオン プロセスは予期しない原因により終了しました
- Windows のログオン プロセスは、ユーザー アプリケーションを起動できませんでした
- Windows のログオン プロセスは、現在ログオンしているユーザーのプロセスを終了できませんでした
- Windows のログオン プロセスは、ユーザー セッションを切断できませんでした

Terminal Service Log ポリシー

SI-MSWindowsServer_TerminalServiceWarnError_ja_JP

このポリシーは、Windows ターミナル サービスと関連プロセスのログ ファイルを監視し、エラーのログ エントリを、注意域またはエラーの重要度レベルで HPOM コンソールに転送します。デフォルトのポーリング間隔は 1 分です。このポリシーは、Windows Terminal サービス ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- ターミナル サーバーは現在接続を受け入れないように構成されているため、接続要求が拒否されました
- 認証に失敗したため、ユーザーをセッションに再接続できませんでした
- ターミナル サービスの起動に失敗しました
- ターミナル サーバーは多数の不完全な接続を受信しました

Windows Server DHCP エラー

SI-MSWindowsServer_DHCPWarnError_ja_JP

このポリシーは、DHCP サーバーおよびクライアント サービス、関連プロセスのログ ファイルを監視し、エラーのログ エントリを、注意域またはエラーの重要度で HPOM コンソールに転送します。デフォルトのポーリング間隔は 1 分です。このポリシーは、Windows Terminal サービス ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- Iashlpr が NPS サービスと通信できません
- スコープまたはスーパースコープの BOOTP クライアントに使用できる IP アドレスはありません
- DHCP サーバーが、クライアントの NAP アクセス状態を判定するために NPS サーバーにアクセスできません
- スコープまたはスーパースコープ "%1" のリースに使用できる IP アドレスはありません
- ローカル コンピューターの DHCP/BINL サービスは、起動権限がないと判断しました
- DHCP サービスは監査ログを初期化できませんでした
- このワークグループ サーバーの DHCP/BINL サービスは、次の IP アドレスの別のサーバーを検出しました
- DHCP サービスはレジストリ構成の復元に失敗しました
- DHCP サービスはレジストリからグローバル BOOTP ファイル名を読み取ることができませんでした
- アクティブなインターフェイスがないため、DHCP サービスはクライアントにサービスを提供していません
- DHCP サーバーにバインドされた静的 IP アドレスがありません
- DHCP サーバー サービスがサービス コントローラーへの登録に失敗しました
- DHCP サーバー サービスがレジストリ パラメータの初期化に失敗しました

AIX システム ログファイル監視ポリシー

AIX システム ログファイル監視ポリシーは、重大なシステム障害を監視します。これらのポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Logs] → [AIX]

ERRPT Log Monitoring ポリシー

SI-AIXErrptLog_ja_JP

「errpt」コマンドの出力は、`errpt.log` ファイルにシステム エラーとして保存されます。SI-AIXErrptLog_ja_JP ポリシーはログ ファイルを監視し、重要度が注意域のメッセージとしてログ エントリを HPOM コンソールに送信します。この警告には、エラー コード、クラス、機能停止が含まれます。

パフォーマンス ポリシー

パフォーマンス監視により、パフォーマンス低下を阻止したり、インフラストラクチャの問題によってサービス品質が低下する可能性がある状況を特定できます。収集したパフォーマンス データを元に、サーバー、オペレーティング システム、ネットワーク デバイス、アプリケーションなどインフラストラクチャ全体で発生しているイベントとの相関関係を把握することによって、パフォーマンスの問題の根本原因を解消または特定することができます。

これらのポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Performance]

Disk Performance ポリシー

SI-PerDiskAvgServiceTime-AT_ja_JP

このポリシーは、管理ノード上のディスク パフォーマンスを監視し、ディスクの書き込みと読み取りサービス時間がしきい値に違反している場合、アラートを送信します。このポリシーを使用するためには、管理ノードで Performance Agent を実行する必要があります。

このポリシーは履歴データに依存します。正確な値を計算するためには、Performance Agent で 1 週間分のデータを収集してからポリシーを配布してください。

使用するメトリック	BYDSK_AVG_SERVICE_TIME
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris

スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	SI-PerDiskAvgServiceTime-AT_ja_JP ポリシーが管理コンソールに送信するメッセージを簡単に識別できるように、わかりやすい値を指定してください。
DataSource	HP Embedded Performance Component (EPC) データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	HP Embedded Performance Component (EPC) データ オブジェクト名を DISK として表示します。
DataMetric	HP Embedded Performance Component (EPC) メトリック名を BYDSK_AVG_SERVICE_TIME として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	書き込みまたは読み取りのディスク要求の処理にかかった平均時間について、メトリックが示す最小値を表示します。

MaximumValue	書き込みまたは読み取りのディスク要求の処理にかかった平均時間について、メトリックが示す最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	このパラメータの値は変更しないでください。
DebugLevel	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
DiskIOCutOff	ディスクの書き込みまたは読み取りサービス時間の監視を停止する基準となる値を設定します。

Global CPU Utilization Monitor ポリシー

SI-GlobalCPUUtilization-AT_ja_JP

このポリシーは、管理ノード上の CPU のパフォーマンスを監視し、すべての CPU の使用率がしきい値に違反している場合、アラートを送信します。

このポリシーは履歴データに依存します。正確な値を計算するためには、Performance Agent で 1 週間分のデータを収集してからポリシーを配布してください。

使用するメトリック	GBL_CPU_TOTAL_UTIL
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris
スクリプト パラメータ	**説明**
MessageApplication	SI-GlobalCPUUtilization-AT_ja_JP ポリシーが管理コンソールに送信するメッセージを簡単に識別できるように、わかりやすい値を指定してください。
DataSource	HP Embedded Performance Component (EPC) データソース名を CODA として表示します。
DataObject	HP Embedded Performance Component (EPC) データ オブジェクト名を GLOBAL として表示します。
DataMetric	HP Embedded Performance Component (EPC) メトリック名を GBL_CPU_TOTAL_UTIL として表示します。

BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	CPU がアイドル以外の状態だった時間の比率について、メトリックが示す最小値を表示します。
MaximumValue	CPU がアイドル以外の状態だった時間の比率について、メトリックが示す最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	このパラメータの値は変更しないでください。
DebugLevel	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。

Run Queue Length Monitor ポリシー

SI-RunQueueLengthMonitor-AT_ja_JP

このポリシーは、CPU の実行キューで待機するプロセスの数を監視し、実行キュー内のプロセス数がしきい値に違反している場合、アラートを送信します。

このポリシーは履歴データに依存します。正確な値を計算するためには、Performance Agent で 1 週間分のデータを収集してからポリシーを配布してください。

使用するメトリック	GBL_RUN_QUEUE
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris
スクリプト パラメータ	**説明**
MessageApplication	このポリシーが管理コンソールに送信するメッセージを選択する際に、わかりやすい値を指定してください。
DataSource	HP Embedded Performance Component (EPC) データ ソース名を CODA として表示します。
DataObject	HP Embedded Performance Component (EPC) データ オブジェクト名を GLOBAL として表示します。
DataMetric	HP Embedded Performance Component (EPC) メトリック名を GBL_RUN_QUEUE として表示します。

BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	所定の期間内に実行キューで待機したスレッド / プロセスの平均数について、メトリックが示す最小値を表示します。
MaximumValue	所定の期間内に実行キューで待機したスレッド / プロセスの平均数について、メトリックが示す最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	このパラメータの値は変更しないでください。
DebugLevel	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。

Network Usage and Performance ポリシー

SI-NetworkUsageAndPerformance_ja_JP

このポリシーは、システムのネットワーク使用率を監視し、エラー率と競合を表示することによって、潜在的なネットワーク ボトルネックを特定します。SI-NetworkUsageAndPerformance_ja_JP ポリシーは、vMA マシンのみの物理 NIC を監視します。

Windows オペレーティング システムでは、BYNETIF_COLLISION メトリックを使用できないため、このポリシーでパッケージ競合に関するパフォーマンス データを監視することはできません。

このポリシーで使用する BYNETIF_UTIL メトリックと BYNETIF_QUEUE メトリックを参照するためには、管理ノード上で HP Performance Agent を実行する必要があります。

使用するメトリック	• BYNETIF_IN_PACKET • BYNETIF_ID • BYNETIF_OUT_PACKET • BYNETIF_ERROR • BYNETIF_COLLISION • BYNETIF_OUT_BYTE_RATE • BYNETIF_IN_BYTE_RATE • BYNETIF_UTIL • BYNETIF_QUEUE • BYNETIF_NAME
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris スクリプト パラメータは、各パラメータの説明で特に指定がない場合、上記のプラットフォームすべてで使用できます。
スクリプト パラメータ	**説明**
NICByteRateCriticalThreshold	このパラメータは、1 秒あたりの転送バイト数の平均値を監視し、この値がしきい値を超えた場合は、重要度が危険域のメッセージを送信します。メッセージを受信する基準となるしきい値を設定できます。
NICByteRateMajorThreshold	1 秒あたりに転送される平均バイト数にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
NICByteRateMinorThreshold	1 秒あたりに転送される平均バイト数にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
NICByteRateWarningThreshold	1 秒あたりに転送される平均バイト数にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
NICErrPktRatePctCriticalThreshold	パケット エラー率とは、送信に失敗したパケット数を、送信パケットの総数に対する比率 (パーセント) で示したものです。このパラメータは、パケット エラー率を監視し、この値がしきい値を超えた場合は、重要度が危険域のメッセージを送信します。
NICErrPktRatePctMajorThreshold	パケット エラー率にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。

NICErrPktRatePctMinorThreshold	パケット エラー率にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
NICErrPktRatePctWarningThreshold	パケット エラー率にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
NICCollisionRatePctCriticalThreshold	このパラメータは、送信パケットの総数に対する競合パケットの比率 (パーセンテージ) を監視します。競合エラー率にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、Windows では使用できません。
NICCollisionRatePctMajorThreshold	競合エラー率にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、Windows では使用できません。
NICCollisionRatePctMinorThreshold	競合エラー率にしきい値を設定すると、しきい値に達した時点で、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、Windows では使用できません。
NICCollisionRatePctWarningThreshold	競合エラー率にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、Windows では使用できません。
NICOutBoundQueueLengthCriticalThreshold	このパラメータは、すべてのネットワーク インターフェイスを対象に、送信キュー内で待機するパケット数を示します。送信キューの長さにしきい値を設定すると、このしきい値に達した時点で、重要度が危険域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、HP-UX と Windows では使用できません。
NICOutBoundQueueLengthMajorThreshold	送信キューの長さにしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、HP-UX と Windows では使用できません。
NICOutBoundQueueLengthMinorThreshold	送信キューの長さにしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、HP-UX と Windows では使用できません。
NICOutBoundQueueLengthWarningThreshold	送信キューの長さにしきい値を設定すると、しきい値に達した時点で、重要度が注意域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、HP-UX と Windows では使用できません。

NICBandwidthUtilCriticalThreshold	このパラメータは、使用可能な総帯域幅に対する使用済み帯域幅の比率 (パーセンテージ) を示します。帯域幅の使用率にしきい値を設定すると、このしきい値に達した時点で、重要度が危険域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、HP-UX、AIX、Windows で使用できます。
NICBandwidthUtilMajorThreshold	帯域幅の使用率にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、HP-UX、AIX、Windows のみで使用できます。
NICBandwidthUtilMinorThreshold	帯域幅の使用率にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、HP-UX、AIX、Windows で使用できます。
NICBandwidthUtilWarningThreshold	帯域幅の使用率にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、HP-UX、AIX、Windows で使用できます。
MessageGroup	このポリシーによって管理コンソールに送信されるメッセージを特定できるように、わかりやすい値を指定してください。しきい値の違反が発生すると、このポリシーは、パラメータの値をメッセージに付加してから管理コンソールに送信します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。

Memory Bottleneck Diagnosis ポリシー

SI-MemoryBottleneckDiagnosis_ja_JP

このポリシーは、物理メモリの使用率とボトルネックを監視します。メモリ使用率が高く、使用可能なメモリ容量が非常に少なくなると、メモリ ボトルネックが発生します。メモリ ボトルネックが発生すると、システムの処理速度が低下し、全体的なパフォーマンスに影響を与えます。メモリ使用率が高くなると、ページアウトが過剰に発生したり、ページ スキャン率、スワップ アウト バイト率、ページ要求率が高くなってしまい、最終的にはシステム速度の低下につながります。

このポリシーは、メモリ ボトルネックのしきい値に違反していないかをチェックし、違反がない場合は、メモリ使用率のしきい値に違反していないかをチェックします。メモリ ボトルネックとメモリ使用率のいずれにも問題がない場合、空きページ テーブルの状態をチェックします。空きページ テーブルのしきい値には、Microsoft が推奨する Windows システム向けの値がデフォルトで設定されています。メモリの使用に関するしきい値のうち、複数に違反している場合には、適切なメッセージ属性のメッセージが HPOM コンソールに送信されます。送付されたメッセージには、メモリを占有している上位 10 のプロセスが表示されます。

メモリ ボトルネックのチェックに使用される各種メトリックは、プラットフォームごとに異なるしきい値の値を使用します。各プラットフォームで適正なしきい値を使用するために、管理ノードにしきい値のオーバーライド ポリシーを配布します。

ThresholdOverrides_Linux は、Linux プラットフォーム上で、メモリ メトリックに対して適切なしきい値を定義します。

ThresholdOverrides_Windows は、Windows プラットフォーム上で、メモリ メトリックに対して適切なしきい値を定義します。

使用するメトリック	• GBL_MEM_UTIL • GBL_MEM_PAGEOUT_RATE • GBL_MEM_PAGEOUT_BYTE_RATE • GBL_MEM_PAGE_REQUEST_RATE* • GBL_MEM_CACHE_FLUSH_RATE * • GBL_MEM_PG_SCAN_RATE • GBL_MEM_PHYS * 上記のメトリックが使用されるのは、HP Performance Agent が管理ノードにインストールされている場合のみです。
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris
スクリプト パラメータ	説明
MemPageOutRateCriticalThreshold	このしきい値には、物理メモリからスワップアウトされた 1 秒あたりの総ページ数で指定します。スワップアウトされたページ数にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
MemPageOutRateMajorThreshold	スワップアウトされたページ数にしきい値を設定します。このしきい値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
MemPageOutRateMinorThreshold	スワップアウトされたページ数にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
MemPageOutRateWarningThreshold	スワップアウトされたページ数にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
MemUtilCriticalThreshold	このしきい値には、ノード上の物理メモリ使用率をパーセンテージ (0 ～ 100%) で指定します。ディスクの使用済みメモリ容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
MemUtilMajorThreshold	ノードの使用済みメモリ容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。

MemUtilMinorThreshold	ノード上の使用済みメモリ容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
MemUtilWarningThreshold	ノード上の使用済みメモリ容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
MemPageScanRateCriticalThreshold	このしきい値には、物理メモリからディスクへスワップインされた 1 秒あたりの総ページ数で指定します。スワップインされたページ数にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
MemPageScanRateMajorThreshold	スワップインされたページ数にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
MemPageScanRateMinorThreshold	スワップインされたページ数にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
MemPageScanRateWarningThreshold	スワップインされたページ数にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
MemPageReqRateHighThreshold	1 秒あたりに発生したディスクからのページ要求数にしきい値を設定します。
MemCacheFlushRateHighThreshold	キャッシュ フラッシュ率にしきい値を設定します。この値に達すると、ファイル システム キャッシュがデータをディスクにフラッシュします。
FreeMemAvailCriticalThreshold	このしきい値には、ディスク/ファイル システムで使用可能な空き物理メモリ容量 (MB 単位) を指定します。ディスク上にある空きメモリ容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
FreeMemAvailMajorThreshold	ディスク上にある空きメモリ容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
FreeMemAvailMinorThreshold	ディスク上にある空きメモリ容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
FreeMemAvailWarningThreshold	ディスク上にある空きメモリ容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
MemSwapoutByteRateCriticalThreshold	このしきい値は、ページアウト デーモンが 1 秒あたりにスキャンするページ数 (MB 単位) で指定します。ディスク上にある空きメモリ容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
MemSwapoutByteRateMajorThreshold	ディスク上にある空きメモリ容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。

MemSwapoutByteRateMinorThreshold	ディスク上にある空きメモリ容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
MemSwapoutByteRateWarningThreshold	ディスク上にある空きメモリ容量の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
FreePageTableCriticalThreshold	このしきい値には、システムで使用可能な空きページ テーブルの数を指定します。ディスク上にある空きページ テーブル エントリ数の最小値にしきい値を設定します。このしきい値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、Windows のみで使用できます。
FreePageTableMajorThreshold	ディスク上にある空きページ テーブル エントリ数の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、Windows のみで使用できます。
FreePageTableMinorThreshold	ディスク上にある空きページ テーブル エントリ数の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、Windows のみで使用できます。
FreePageTableWarningThreshold	ディスク上にある空きページ テーブル エントリ数の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。 このパラメータは、Windows のみで使用できます。
MessageGroup	このポリシーによって管理コンソールに送信されるメッセージを特定できるように、わかりやすい値を指定してください。しきい値の違反が発生すると、このポリシーは、パラメータの値をメッセージに付加してから管理コンソールに送信します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。

CPU Spike Check ポリシー

SI-CPUSpikeCheck_ja_JP

これは、プロセッサのパフォーマンスを監視するポリシーです。CPU スパイクとは、CPU 使用率が急増した直後に低減する現象です。SI-CPUSpikeCheck_ja_JP ポリシーは、システム モードでの CPU ビジー時間あたりの CPU スパイク、ユーザー モードでの CPU ビジー時間あたりの CPU スパイク、CPU ごとの総ビジー時間を監視します。

使用するメトリック	• BYCPU_CPU_USER_MODE_UTIL • BYCPU_CPU_SYS_MODE_UTIL • BYCPU_ID • BYCPU_CPU_TOTAL_UTIL
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris
スクリプト パラメータ	説明
CpuUtilCriticalThreshold	このしきい値は、CPU がビジー状態の CPU 時間の合計で指定します。つまり、CPU 使用時間の合計です。これには、ユーザー モードとシステム モードで CPU を使用した時間の合計が含まれます。CPU の総使用時間の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
CpuUtilMajorThreshold	CPU の総使用時間の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
CpuUtilMinorThreshold	CPU の総使用時間の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
CpuUtilWarningThreshold	CPU の総使用時間の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
CpuUtilUsermodeCriticalThreshold	このしきい値は、CPU がユーザー モードでビジー状態のときの CPU 時間の比率をパーセンテージ (0 ～ 100%) で指定します。CPU のビジー時間の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
CpuUtilUsermodeMajorThreshold	ユーザー モードでの CPU ビジー時間の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
CpuUtilUsermodeMinorThreshold	ユーザー モードでの CPU ビジー時間の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
CpuUtilUsermodeWarningThreshold	ユーザー モードでの CPU ビジー時間の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。

CpuUtilSysmodeCriticalThreshold	このしきい値には、CPU がシステム モードでビジー状態のときの CPU 時間の比率をパーセンテージ (0 ～ 100%) で指定します。CPU のビジー時間の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
CpuUtilSysmodeMajorThreshold	システム モードでの CPU ビジー時間の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
CpuUtilSysmodeMinorThreshold	システム モードでの CPU ビジー時間の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
CpuUtilSysmodeWarningThreshold	システム モードでの CPU ビジー時間の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
InterruptRateCriticalThreshold	このしきい値は、サンプリング期間内に発生した 1 秒あたりのデバイス割り込みの平均数で指定します。CPU の割り込み率の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
InterruptRateMajorThreshold	CPU の割り込み率の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
InterruptRateMinorThreshold	CPU の割り込み率の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
InterruptRateWarningThreshold	CPU の割り込み率の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。

CPU Bottleneck Diagnosis ポリシー

SI-CPUBottleneckDiagnosis_ja_JP

このポリシーは、CPU 使用率、プロセッサ キューの長さ、システムに搭載されている CPU の総数、オペレーティング システムに関するしきい値の超過など、CPU のボトルネックを検出します。

CPU 使用率のしきい値と、CPU 時間をキュー内で待機するプロセス数のしきい値に違反した場合、このポリシーは、適切な属性を含むメッセージを HPOM コンソールに送信します。このメッセージには、CPU を占有している上位 10 のプロセスが表示されます。

Linux/ Solaris 環境では、このポリシーが HPOM で最初に検出した CPU ボトルネックは報告されません。それ以降検出したボトルネックについて、CPU を占有する上位 10 のプロセス一覧を示す警告メッセージを送信します。

使用するメトリック	• GBL_CPU_TOTAL_UTIL • GBL_RUN_QUEUE • GBL_NUM_CPU • GBL_OSNAME • GBL_INTERRUPT_RATE • GBL_CSWITCH_RATE* * このポリシーが使用されるのは、HP Performance Agent が管理ノードにインストールされている場合のみです
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris

スクリプト パラメータ	説明
GlobalCpuUtilCriticalThreshold	このしきい値は、全体的な CPU 使用率で指定します。全体的な CPU 使用率の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、危険域メッセージが受信されます。
GlobalCpuUtilMajorThreshold	全体的な CPU 使用率の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要警戒域メッセージが受信されます。
GlobalCpuUtilMinorThreshold	全体的な CPU 使用率の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、警戒域メッセージが受信されます。
GlobalCpuUtilWarningThreshold	全体的な CPU 使用率の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、注意域メッセージが受信されます。
RunQueueLengthCriticalThreshold	しきい値はプロセス キューの長さとして表現されます。これは、CPU 時間が空くのを待機しているプロセスの数です。重要度が危険域のメッセージを受信する、キュー内の最小プロセス数のしきい値を設定します。
RunQueueLengthMajorThreshold	重要度が重要警戒域のメッセージを受信する、キュー内の最小プロセス数のしきい値を設定します。

RunQueueLengthMinorThreshold	重要度が警戒域のメッセージを受信する、キュー内の最小プロセス数のしきい値を設定します。
RunQueueLengthWarningThreshold	重要度が注意域のメッセージを受信する、キュー内の最小プロセス数のしきい値を設定します。
ContextSwitchRateCriticalThreshold	このしきい値は、システムで発生するコンテキスト スイッチの総数で指定します。コンテキスト スイッチの総数にしきい値を設定します。このしきい値に達すると、危険域メッセージが受信されます。
ContextSwitchRateMajorThreshold	コンテキスト スイッチの総数にしきい値を設定します。このしきい値に達すると、重要警戒域メッセージが受信されます。
ContextSwitchRateMinorThreshold	コンテキスト スイッチの総数にしきい値を設定します。このしきい値に達すると、警戒域メッセージが受信されます。
ContextSwitchRateWarningThreshold	コンテキスト スイッチの総数にしきい値を設定します。このしきい値に達すると、注意域メッセージが受信されます。
InterruptRateCriticalThreshold	このしきい値は、サンプリング期間内で発生した 1 秒あたりのプロセッサ割り込みの平均数で指定します。CPU の割り込み率の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が危険域のメッセージが受信されます。
InterruptRateMajorThreshold	CPU の割り込み率の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が重要警戒域のメッセージが受信されます。
InterruptRateMinorThreshold	CPU の割り込み率の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が警戒域のメッセージが受信されます。
InterruptRateWarningThreshold	CPU の割り込み率の最小値にしきい値を設定します。この値に達すると、重要度が注意域のメッセージが受信されます。
MessageGroup	このポリシーによって管理コンソールに送信されるメッセージを特定できるように、わかりやすい値を指定してください。しきい値の違反が発生すると、このポリシーは、パラメータの値をメッセージに付加してから管理コンソールに送信します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。

Per Disk Utilization-AT ポリシー

SI-PerDiskUtilization-AT_ja_JP

このポリシーは、管理ノード上の各ディスクの使用率を監視します。このポリシーは、各収集間隔について、ディスク インスタンスを個別に処理します。自動しきい値決定により、前日のディスク使用率に基づいてしきい値が自動計算されます。このポリシーを使用するためには、管理ノードで Performance Agent を実行する必要があります。

このポリシーは履歴データに依存します。正確な値を計算するためには、Performance Agent で 1 週間分のデータを収集してからポリシーを配布してください。

使用するメトリック	BYDSK_UTIL
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris
スクリプト パラメータ	**説明**
MessageApplication	SI-PerDiskUtilization-AT_ja_JP ポリシーが管理コンソールに送信するメッセージを簡単に識別できるように、わかりやすい値を指定してください。
DataSource	HP Embedded Performance Component (EPC) データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	HP Embedded Performance Component (EPC) データ オブジェクト名を DISK として表示します。
DataMetric	HP Embedded Performance Component (EPC) メトリック名を BYDSK_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックが示すディスク使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックが示すディスク使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	このパラメータの値は変更しないでください。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
DiskUtilCutOff	ディスク使用率の監視を停止する基準となる値を設定します。

Network Interface Outbyte Rate ポリシー

SI-PerNetifOutbyteBaseline-AT_ja_JP

このポリシーは、所定の間隔でのネットワーク インターフェイスの送信バイト率を監視します。管理ノード上にあるネットワーク インターフェイスの送信バイトを個別に監視します。このポリシーは、収集間隔ごとに、ネットワーク インターフェイスを個別に処理します。自動しきい値決定により、前日のネットワーク インタフェース送信バイト率に従って自動的にしきい値が計算されます。

このポリシーは履歴データに依存します。正確な値を計算するためには、Performance Agent で 1 週間分のデータを収集してからポリシーを配布してください。このポリシーで vMA マシンの物理 NIC を監視することはできません。

使用するメトリック	BYNETIF_OUT_BYTE_RATE
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris
スクリプト パラメータ	**説明**
MessageApplication	SI-PerNetifOutbyteBaseline-AT_ja_JP ポリシーが管理コンソールに送信するメッセージを簡単に識別できるように、わかりやすい値を指定してください。
DataSource	HP Embedded Performance Component (EPC) データ ソース名を CODA として表示します。
DataObject	HP Embedded Performance Component (EPC) データ オブジェクト名を NETIF として表示します。
DataMetric	HP Embedded Performance Component (EPC) メトリック名を BYNETIF_OUT_BYTE_RATE として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示されたネットワーク インターフェイス送信バイト率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示されたネットワーク インターフェイス送信バイト率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
ByNetifOutByteCutOff	送信バイト率の監視を停止する基準となる値を設定します。

Network Interface Inbyte Rate ポリシー

SI-PerNetifInbyteBaseline-AT_ja_JP

このポリシーは、所定の間隔でのネットワーク インターフェイスの受信バイト率を監視します。管理ノード上にあるネットワーク インターフェイスの受信バイトを個別に監視します。このポリシーは、収集間隔ごとに、ネットワーク インターフェイスを個別に処理します。自動しきい値決定により、前日のネットワーク インタフェース受信バイト率に従って自動的にしきい値が計算されます。

このポリシーは履歴データに依存します。正確な値を計算するためには、Performance Agent で 1 週間分のデータを収集してからポリシーを配布してください。このポリシーで vMA マシンの物理 NIC を監視することはできません。

使用するメトリック	BYNETIF_IN_BYTE_RATE
サポートされているプラットフォーム	• Microsoft Windows • Red Hat Enterprise Linux • Suse Linux Enterprise Server • HP-UX • IBM AIX • Oracle Solaris
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	ポリシーが管理コンソールに送信するメッセージを簡単に識別できるような値を指定してください。
DataSource	HP Embedded Performance Component (EPC) データ ソース名を CODA として表示します。
DataObject	HP Embedded Performance Component (EPC) データ オブジェクト名を NETIF として表示します。
DataMetric	HP Embedded Performance Component (EPC) メトリック名を BYNETIF_IN_BYTE_RATE として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示されたネットワーク インターフェイス受信バイト率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示されたネットワーク インターフェイス受信バイト率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
ByNetifInByteCutOff	受信バイト率の監視を停止する基準となる値を設定します。

Sample Performance ポリシー

Systems Infrastructure SPI では、システム上で実行されるプロセスのパフォーマンスの監視に使用可能なパフォーマンス ポリシーのサンプルが用意されています。このポリシーをテンプレートとしてコピーしてから、各ユーザーのニーズに合わせて変更することができます。

スクリプト パラメータ	説明
ProcessName	監視対象となるプロセスの名前を入力します。
ProcessArguments	必要に応じて、プロセス引数を入力します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
CPUUsageHighWaterMark または MemoryUsageHighWaterMark	プロセスの CPU 使用率またはメモリ使用率にしきい値を設定します。この値に達すると、アラートが受信されます。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を **0** に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには **1**、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには **2** に設定します。詳細については、「トレース」を参照してください。

次のようなサンプル ポリシーが提供されています。

- **SI-JavaProcessMemoryUsageTracker_ja_JP** ポリシーは、システム上で実行される Java プロセスのメモリ使用率を監視します。このポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

  [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Performance] → [Process Resource Usage Monitor Samples]

- **SI-JavaProcessCPUUsageTracker_ja_JP** ポリシーは、システム上で実行される Java プロセスの CPU 使用率を監視します。このポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

  [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Performance] → [Process Resource Usage Monitor Samples]

- **SI-MSWindowsSvchostCPUUsageTracker_ja_JP** ポリシーは、システム上で実行される svchost プロセスの CPU 使用率を監視します。このポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

  [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Performance] → [Process Resource Usage Monitor Samples] → [Windows]

- **SI-MSWindowsSvchostMemoryUsageTracker_ja_JP** ポリシーは、システム上で実行される svchost プロセスのメモリ使用率を監視します。このポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

  [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Performance] → [Process Resource Usage Monitor Samples] → [Windows]

セキュリティ ポリシー

不正ユーザーは、別のユーザー名とパスワードの入力や自動スクリプトなどの手段で、システムへの侵入を試みることがあります。このような不正アクセスを実行しようとすると、ログインの失敗が何度も発生します。このようなリスクを把握し、回避する方法として、System Infrastructure のセキュリティ ポリシーでログインの失敗回数を定期的にチェックすることができます。たとえば、セキュリティ ポリシーは、ログイン試行回数が多すぎる場合、失敗したログイン データを収集し、アラートを送信します。

セキュリティ コレクタ ポリシーを配布したら、必要なデータを収集するために、ポリシーを 5 分以上実行してください。

Windows 用の Failed Login Collector ポリシー

SI-MSWindowsFailedLoginsCollector_ja_JP

これは、Scheduled Task ポリシーであり、Microsoft Windows 上で失敗したログインの試行回数をチェックします。管理ノード上で、不明なユーザー名やパスワード誤りのいずれかが原因で無効なログインが発生していないかどうかをチェックします。このポリシーは、ログイン失敗の個々のインスタンスを、Embedded Performance Component (EPC) の GBL_NUM_FAILED_LOGINS メトリックに一定の間隔で記録します。デフォルトでは、1 時間おきに記録します。EPC に記録された情報に基づいて、コンソールにアラートを送信したり、所定の時間内で発生した無効なログイン回数を示すレポートを作成できます。このポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Security] → [Windows]

Windows 用の Last Logon Collector ポリシー

SI-MSWindowsLastLogonsCollector_ja_JP

これは、Scheduled Task ポリシーであり、Microsoft Windows 上でアクティブなすべてのローカル ユーザー アカウントのログインの詳細をチェックします。このポリシーは、ユーザー ログインの個々のインスタンスを、Embedded Performance Component (EPC) の SECONDS_SINCE_LASTLOGIN メトリックに一定の間隔で記録します。デフォルトでは、1 時間おきに記録します。EPC に記録された情報に基づいて、コンソールにアラートを送信したり、所定の時間内で発生したユーザー ログイン回数を示すレポートを作成できます。このポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Security] → [Windows]

Linux 用の Failed Login Collector ポリシー

SI-UNIXFailedLoginsCollector_ja_JP

これは、Scheduled Task ポリシーであり、RHEL および SLES Linux システム、HP-UX、AIX、Solaris 上で失敗したログインの試行回数をチェックします。管理ノード上で、不明なユーザー名やパスワード誤りのいずれかが原因で無効なログインが発生していないかどうかをチェックします。このポリシーは、ログイン失敗の個々のインスタンスを、Embedded Performance Component (EPC) の GBL_NUM_FAILED_LOGINS メトリックに一定の間隔で記録します。デフォルトでは、1 時間おきに記録します。EPC に記録された情報に基づいて、コンソールにアラートを送信したり、所定の時間内で発生した無効なログイン回数を示すレポートを作成できます。このポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Security] → [Linux]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Policies grouped by Vendor] → [<os> - QuickStart]**

  <os> は AIX、HP-UX、SLES、RHEL、Solaris のいずれかです

Solaris ノードで SI-UNIXFailedLoginsCollector_ja_JP ポリシーが正しく機能するには、次の条件を満たす必要があります。

- Solaris ノード上の `/etc/default/login` ファイルで、次の設定を行う必要があります。

  `SYSLOG=YES`

  `SYSLOG_FAILED_LOGINS=1`

- `/etc/syslog.conf` ファイルの次の行がコメントになっている場合は解除するか、存在しない場合は行を追加します。

  `auth.notice  ifdef(`LOGHOST', /var/log/authlog, @loghost)`

- 次のコマンドを実行して、`syslogd` を更新します。

  `svcadm refresh system/system-log`

他のノードに配布された SI-UNIXFailedLoginsCollector ポリシー

ノード	失敗したログインの表示に使用されるコマンド/ログファイル
Solaris	`/var/log/authlog`
Linux	`lastb` コマンド
HP-UX	`lastb` コマンド
AIX	`/etc/security/failedlogin` ログ

Linux 用の Last Logon Collector ポリシー

SI-LinuxLastLogonsCollector_ja_JP

これは、Scheduled Task ポリシーであり、RHEL および SLES Linux システム上でアクティブなすべてのローカル ユーザー アカウントのログインの詳細をチェックします。このポリシーは、ユーザー ログインの個々のインスタンスを、Embedded Performance Component (EPC) の SECONDS_SINCE_LASTLOGIN メトリックに一定の間隔で記録します。デフォルトでは、1 時間おきに記録します。EPC に記録された情報に基づいて、コンソールにアラートを送信したり、所定の時間内で発生したユーザー ログイン回数を示すレポートを作成できます。このポリシーのデフォルトのポリシー グループは以下のとおりです。

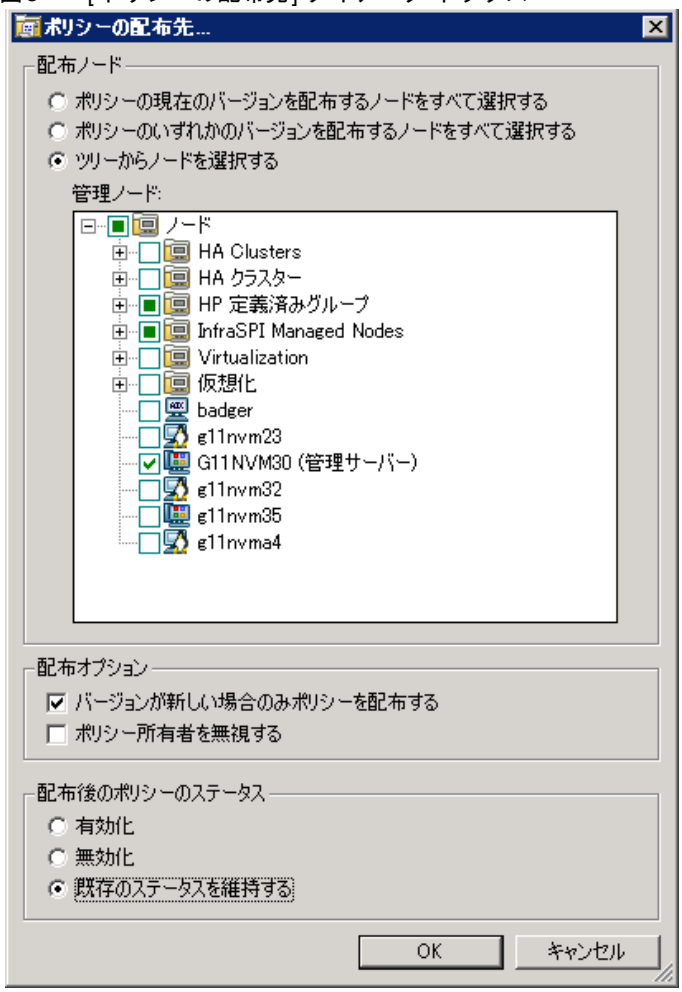
[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Systems Infrastructure] → [Security] → [Linux]

HPOM for Windows 管理サーバーからの SI SPI ポリシーの配布

管理サーバーからポリシーを手動で配布するには、以下の手順を実行します。

1. 配布するポリシーを右クリックします。
2. メニューから **[すべてのタスク]** を選択します。
3. **[配布先ノード]** を選択します。[ポリシーの配布先] ダイアログ ボックスが開きます。
4. **[ツリーからノードを選択する]** オプションを選択します。管理ノードのリストから、ポリシーを配布するノードを選択します。
5. **[OK]** をクリックします。

図3　[ポリシーの配布先] ダイアログ ボックス



HPOM for UNIX 管理サーバーからの SI SPI ポリシーの配布

ポリシーを配布する前に、管理サーバーに既にノードが追加された状態であり、HP Operations Agent ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。管理サーバーにノードを追加する方法の詳細は、HP Operations Manager for Unix オンライン ヘルプを参照してください。

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、Solaris) 管理サーバーからポリシーを配布するには、以下の手順を実行します。

タスク 1: ポリシーまたはポリシー グループの割り当て

1. 管理者として HPOM にログオンします。HPOM 管理者用 UI が表示されます。
2. [登録オブジェクト] カテゴリの **[登録ポリシー]** をクリックします。[登録ポリシー] ウィンドウが開きます。
3. [登録ポリシー] ウィンドウで、ノードまたはノード グループに割り当てるポリシーまたはポリシー グループを選択します。
4. **[アクションを選択]** ドロップダウン ボックスから **[ノード / ノード グループに割り当て ...]** を選択し、[submit] をクリックします。

   [セレクタ] ウィンドウが開きます。
5. ノードまたはノード グループを選択し、**[OK]** をクリックします。

選択したポリシーがノードに割り当てられます。

タスク 2: ポリシーの配布

1. HPOM 管理者用 UI から、[登録オブジェクト] カテゴリの **[登録ノード]** をクリックします。[登録ノード] ウィンドウが開きます。
2. [登録ノード] ウィンドウで、ポリシーの配布先となるノードまたはノード グループを選択します。
3. **[アクションを選択]** ドロップダウン ボックスから **[設定を配布...]** を選択し、[submit] をクリックします。

   選択ウィンドウが開きます。
4. **[ポリシーの配布]** チェック ボックスをオンにし、**[OK]** をクリックします。

   このポリシーは、選択したノードに配布されます。

Systems Infrastructure SPI ツール

ツールでは、管理ノード上のサービスを管理したり、特定の管理ノードの収集データを一覧表示できます。

HPOM for Windows で Systems Infrastructure ツールにアクセスするには、次を選択します。

[ツール] → **[システム インフラストラクチャ]**

HPOM for UNIX/Linux のコンソール/管理者用 UI からツールにアクセスするには、次を選択します。

[登録ツール] → **[システム インフラストラクチャ]**

ユーザーの前回のログイン ツール

[ユーザーの前回のログイン] ツールを管理ノードで起動すると、すべてのアクティブ ユーザーと、前回のログインに関する詳細情報が一覧表示されます。このツールを起動する前に、対応する Last Logon Collector ポリシーを導入しておいてください。Last Logon Collector ポリシーの詳細については、「Windows 用の Last Logon Collector ポリシー」と「Linux 用の Last Logon Collector ポリシー」を参照してください。

HPOM for Windows 管理サーバーからツールを起動するには、以下の手順を実行します。

1. コンソール ツリーの **[ツール]** フォルダで、**[システム インフラストラクチャ]** フォルダを選択します。
2. 詳細ペインで **[ユーザーの前回のログイン]** ツールを選択し、右クリックするとショートカット メニューが開きます。
3. **[すべてのタスク]** → **[ツールの起動...]** を選択すると、**[このツールの起動場所の選択]** ダイアログ ボックスが開きます。

   このダイアログ ボックスには、選択したツールを起動できる管理ノードが一覧表示されます。
4. ツールを起動したいノードのチェック ボックスを選択します。**[ノード]** フォルダを選択すると、フォルダ内にあるツール全体を選択できます。
5. **[起動]** をクリックします。

   [ツールのステータス] ダイアログ ボックスが開き、起動結果が表示されます。

   適用ツールの実行結果を保存できます。**[起動したツール]** ボックスにある 1 行または複数の行を選択してから、**[保存]** をクリックします。出力がテキスト形式で保存されます。

HPOM for UNIX 管理サーバーからツールを起動するには、以下の手順を実行します。

1. Java UI で、**[ツール]** → **[システム インフラストラクチャ]** を選択します。
2. **<ツール名>** ツールを右クリックし、**[カスタマイズ/起動]** を選択します。

   [ツール起動 - カスタマイズ ウィザード] ウィンドウが開きます。
3. ノード リストで、ツールを起動するノードを選択します。
4. ウィザードで **[選択の取込み]** をクリックします。

   ノードが [選択したノード] リストに追加されます。
5. **[次へ]** をクリックします。

   [ツール実行に必要な情報を追加してください] ページで、その他の情報を入力するか、各フィールドを空白のままにします。
6. **[完了]** をクリックします。

   ツールの出力が表示されます。

第5章 Systems Infrastructure SPI のレポートとグラフ

Systems Infrastructure SPI と HP Reporter を統合することにより、管理ノードから収集したメトリックデータに基づいてレポートを生成できます。レポートから、システム リソースの全体像を把握できます。また、グラフを作成して、収集されたメトリック データを分析することもできます。Systems Infrastructure SPI で収集したデータからレポートとグラフを作成して表示するには、HP Reporter と HP Performance Manager を HPOM と併用します。

Systems Infrastructure SPI のレポート

レポートから、システム リソースの全体像を把握できます。Systems Infrastructure SPI と HP Reporter を統合することにより、管理ノードから収集したメトリック データに基づいてレポートを生成できます。

Systems Infrastructure SPI のレポートには、HPOM for Windows コンソールからアクセスできます。Systems Infrastructure SPI 向けに HP Reporter パッケージをインストールする手順については、『HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストール ガイド』を参照してください。

HPOM for Windows から Systems Infrastructure SPI のレポートを表示するには、コンソール ツリーで **[Reports]** → **[Systems Infrastructure]** を選択して展開します。必要なレポートを選択して右クリックし、**[レポートの表示]** を選択すると、レポートが表示されます。

HP Reporter を HPOM 管理サーバーにインストールした場合、管理サーバーでレポートを直接表示できます。

HPOM 管理サーバーに接続されている別のシステムに HP Reporter をインストールした場合、HP Reporter システムでレポートを表示できます。HP Reporter と HPOM を統合する方法の詳細は、『HP Reporter インストールおよび特別構成ガイド』を参照してください。以下に、レポートの例を示します。

図 4　Systems Infrastructure SPI のレポートの例

Operations - Smart Plug-ins for Infrastructure

Unused Logins
for Group Systems Infrastructure

This report was prepared: 8/11/2009, 3:00:53 AM

This report shows the login information for all the managed nodes.

aspint7-sol.ov.test

Login Name	Dates in Database	Last Login Date	Day Since Login (DD:HH:MM:SS)
root	08/09/2009 - 07/29/2009	8/4/2009 11:59:32PM	2:13:30:28

Never Logged in User List

halt
netdump
news
opc_op
shutdown
sync
vi-user

btovm555.ov.test

Login Name	Dates in Database	Last Login Date	Day Since Login (DD:HH:MM:SS)
vi-admin	08/08/2009 - 07/29/2009	8/5/2009 11:59:05PM	0:19:05:55

Never Logged in User List

halt
netdump
news
opc_op
shutdown
sync
vi-user

Systems Infrastructure SPI には、以下のレポートが用意されています。

レポート/レポートのタイトル	目的
System Last Login	特定のログインが管理ノード上で最後に使用された日時が表示されます。また、これまでに一度もログインしていないユーザーが一覧表示されます。データは、日付および時刻順にソートされます。このレポートでは、使用されていないユーザー アカウントや古くて無効になったユーザー アカウントを特定できます。
System Failed Login	管理ノード上で発生したログインの失敗がすべて一覧表示されます。このレポートでは、管理ノードにログインを繰り返し試行する不正ユーザーがいないかどうかを把握できます。
System Availability	システムに関する可用性情報が表示されます。このレポートでは、勤務時間外、週末、祭日を除くデータベース内の日付範囲について、システム稼働時間の比率やダウンタイムの長さに関する情報を把握できます。
Top CPU Process	CPU 使用率が高いシステムが表示されます。このレポートのデータに基づいて、レポート期間中に大量の CPU サイクルを消費しているシステムを分析できます。
Top Memory Process	メモリ使用量が多いシステムが表示されます。このレポートのデータに基づいて、レポート期間中に大量のメモリ容量を消費しているシステムを分析できます。

Systems Infrastructure SPI のグラフ

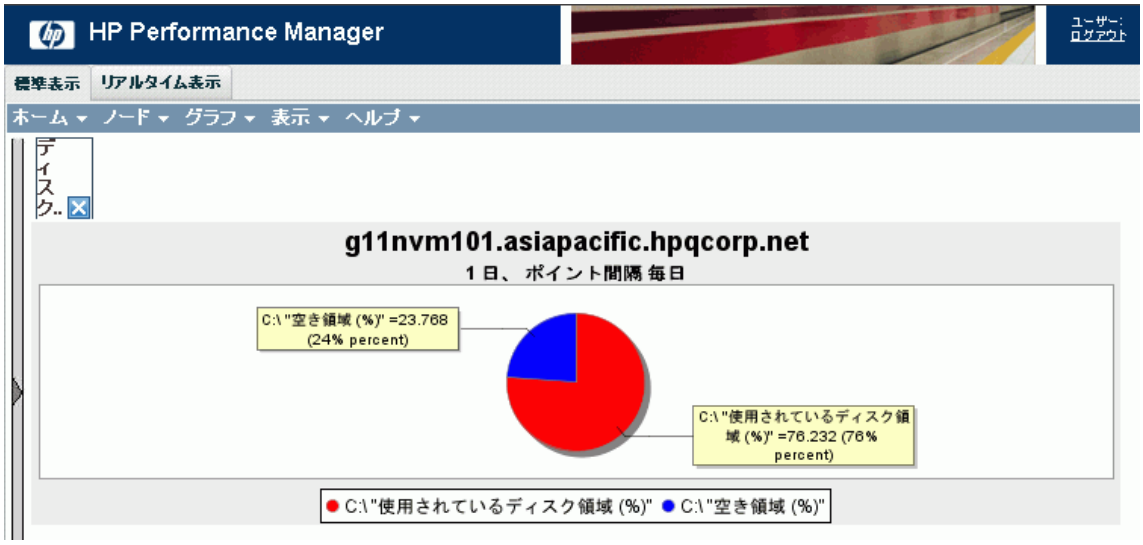
HP Performance Manager では、管理ノードで収集されたほぼリアルタイムのデータを元にグラフが生成されます。HP Performance Manager を HPOM 管理サーバーにインストールしている場合、HPOM コンソールからこれらのグラフにアクセスできます。

Systems Infrastructure SPI には、設定済みのグラフがいくつか用意されています。これらのグラフは、HPOM コンソール ツリーの [Graphs] フォルダにあります。この [Graphs] フォルダにアクセスできるのは、HPOM 管理サーバーに HP Performance Manager をインストールした場合のみです。以下に、グラフの例を示します。

HPOM for Windows でグラフにアクセスするには、**[Graphs]** → **[インフラストラクチャのパフォーマンス]** を選択します。

HPOM for UNIX/Linux/Solaris でグラフにアクセスするには、アクティブなメッセージを選択して [メッセージのプロパティ] ウィンドウを開き、**[アクション]** をクリックします。[オペレータ起動アクション] 項で、**[起動]** をクリックします。または、アクティブなメッセージを右クリックして **[アクションの起動/停止]** を選択し、**[オペレータ起動アクションの起動]** をクリックします。

図 5　Systems Infrastructure SPI のグラフの例



Systems Infrastructure SPI には、以下のグラフが用意されています。

グラフ	グラフの設定
ディスク	• ディスク使用率 • ディスクの概要 • ディスクのスループット • ディスク容量 • ディスク容量 (円グラフ) • ディスクの詳細
グローバル パフォーマンス	• 全体の履歴 • グローバル実行キューのベースライン • 全体の詳細 • 複数のグローバル予測

グラフ	グラフの設定
CPU	• CPU の概要 • CPU 使用率の概要 • 個々の CPU • CPU の比較 • CPU ゲージ • CPU の詳細 • 全体的な CPU の予測 • 季節を考慮した CPU の予測
ネットワーク	• ネットワークの概要 • 個々のネットワーク • ネットワーク インターフェイスの詳細
メモリ	• メモリの概要 • 物理メモリ使用率
構成	• 構成の概要 • システム構成
トランザクション	• トランザクションの正常性 • トランザクションの履歴 • トランザクションの詳細 • トランザクションの応答予測
ファイル システム	• ファイル システムの詳細
アプリケーション	• アプリケーション CPU ゲージ • アプリケーション CPU 予測 • アプリケーションの履歴 • アプリケーションの詳細
プロセス	• プロセスの詳細

第6章 トラブルシューティング

この章では、SI SPI での基本的なトラブルシューティングのシナリオを紹介します。

問題	ハードウェア監視ポリシーがアラートを送信しない。
原因	-
解決策	• `snmpd` サービスが停止している場合は、開始します。 **`# /etc/init.d/snmpd start`** • `opctrapi` がポート番号 162 をリッスンしていることを確認します。

問題	ゲスト仮想マシンの自動追加機能でエラーが発生する。
原因	InfraSPI-ServerSettings ポリシーの AutoAdd_Guests パラメータは、デフォルトで false に設定されます。この設定には、ゲスト仮想マシンが自動的に追加されることにより、コンソール GUI がフリーズしてしまうことを防ぐ目的があります。
解決策	InfraSPI-ServerSettings ポリシーで **`AutoAdd_Guests=true`** パラメータを設定してから、ポリシーを再配布します。ポリシーにアクセスするには、**[Infrastructure Management]** → **[Settings and Thresholds]** → **[Agent Settings]** をクリックします。

問題	HPOM コンソールに警告/エラー メッセージが表示される。
	`An error occurred in the processing of the policy 'SI-PerDiskUtilization-AT'. Please check the following errors and take corrective actions. (ポリシー 'SI-PerDiskUtilization-AT_ja_JP' の処理中にエラーが発生しました。以下のエラーを確認して修正措置をとってください。) (OpC30-797)`
	`Initialization of collection source "DoNotRename" failed. (コレクション ソース "DoNotRename" の初期化に失敗しました。) (OpC30-724)`
	`Cannot find object 'DISK' in Coda object list. (Coda オブジェクト リスト内で 'DISK' オブジェクトが見つかりません。) (OpC30-761)`
	`Searching for 'data source: SCOPE' in the DataSourceList failed. (DataSourceList での 'data source: SCOPE' の検索に失敗しました。) (OpC30-766)`

原因	HP Performance Agent がインストールされていないノードに SI-PerDiskUtilization-AT_ja_JP ポリシーを配布すると、このエラーが発生します。SI-PerDiskUtilization-AT_ja_JP ポリシーは、SCOPE が提供するメトリックを使用し、正常に動作するためには HP Performance Agent が必要です。
解決策	管理ノードに HP Performance Agent をインストールします。これにより、ポリシーは正常に機能します。

問題	HPOM for UNIX の管理者用 GUI で変更した高度な監視ポリシーを管理ノードに配布した後、実行できない。

原因	HPOM for UNIX ポリシー エディタで高度な監視ポリシーを編集すると、Perl コード モジュールで構文エラーが発生します。そのため、ポリシーを実行できません。以下のようなエラーが表示されます。
	`An error occurred in the processing of the policy 'SI-LinuxSshdProcessMonitor'. Please check the following errors and take corrective actions. (ポリシー 'SI-LinuxSshdProcessMonitor_ja_JP' の処理中にエラーが発生しました。以下のエラーを確認して修正措置をとってください。) (OpC30-797)`
	`Error during evaluation of threshold level "Processes - Fill Instance list" (しきい値レベル "Processes - Fill Instance list" の評価中にエラーが発生しました) (OpC30-728)`
	`Execution of instance filter script failed. (インスタンス フィルタ スクリプトの実行に失敗しました。) (OpC30-714)`
	`Perl Script execution failed: syntax error at PerlScript line 11, near "1 (Perl スクリプトの実行に失敗しました。Perl スクリプトの 11 行目、"1 の近くに構文エラーがあります)`
	
	`#BEGIN_PROCESSES_LIST`
	`#ProcName=/usr/sbin/sshd`
	`#Params=`
	`#Params=`
	`#MonMode=>=`
	`#ProcNum=1`
	`#END_PROCESSES_LIST`
	`@ProcNames"`
	`Missing right curly or square bracket at PerlScript line 17, within string (Perl スクリプトの 17 行目の文字列に右中括弧または角括弧がありません)`
	`syntax error at PerlScript line 17, at EOF. (Perl スクリプトの 17 行目、EOF に構文エラーがあります。) (OpC30-750)`
	未編集の高度な監視ポリシー ([Measurement Threshold] タイプ) を HPOM for UNIX から配布して使用できます。

解決策	Measurement Threshold ポリシーの設定を編集するため、HPOM for UNIX の管理者用 GUI の「編集 (Raw モード)」機能を使用してポリシーの内容を変更します。そのためには、ポリシー データ ファイルの構文を理解している必要があります。

問題	HPOM for UNIX (バージョン 9.00) オペレータ コンソールから Systems Infrastructure SPI グラフを表示するコマンドをオペレータが実行すると、エラーが発生する。
原因	-
解決策	HPOM サーバーで次のコマンドを実行してください。 **`/opt/OV/contrib/OpC/OVPM/install_OVPM.sh <OMU サーバー名>:8081`**

問題	英語以外の名前を使用すると、検出手順とデータ収集でエラーが発生する。
原因	英語版以外の HP Operations Manager では、Systems Infrastructure SPI をインストールすることはできますが、名前に英語以外の言語を使用するとエラーが発生します。このエラーは、HP Operations Agent のストア コレクション Perl API が英語以外の名前を認識できないことが原因で発生します。
解決策	クラスターやリソース グループの名前には英語を使用してください。

問題	システム検出でノード が自動追加されるときに、アラート メッセージが表示される。
原因	クラスター環境や仮想化環境でノードを自動追加する際、システム検出ポリシーによって、通常の重要度でアラート メッセージが生成されます。ポリシーの自動追加機能によってノード バンクにノードを追加する処理には時間がかかるので、アラート メッセージが受諾されるまでに若干の時間がかかります。
解決策	次に示す XPL 設定パラメータのデフォルト値を変更して、自動追加機能を無効にします。 • AutoAdd_ClusterNode: デフォルト値は「True」です。「False」に変更します。 • AutoAdd_Cluster_RG_IP: デフォルト値は「True」です。「False」に変更します。 • AutoAdd_HypervisorNode: デフォルト値は「True」です。「False」に変更します。 • AutoAdd_Guests: デフォルト値は「False」です。「True」に変更します。

We appreciate your feedback!

If an email client is configured on this system, by default an email window opens when you click on the bookmark “Comments”.

In case you do not have the email client configured, copy the information below to a web mail client, and send this email to **docfeedback@hp.com**

Product name:

Document title:

Version number:

Feedback: